

令和2年度 第2次菊川市総合計画進捗状況報告書

# 政策評価シート

菊川市

<b>目次</b>	<b>基本目標1 子どもがいきいき育つまち 【子育て・教育】</b>	<b>1</b>
	政策1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり	1
	政策2 親と子が健やかに成長できるまちづくり	2
	政策3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	3
	政策4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり	4
	政策5 人を育み、若者を育てるまちづくり	5
	<b>基本目標2 健康で元気に暮らせるまち 【保健・福祉・医療・社会教育】</b>	<b>6</b>
	政策1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	6
	政策2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり	7
	政策3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	8
	政策4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	9
	政策5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	10
	政策6 生涯にわたり学べるまちづくり	11
	政策7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり	12
	政策8 スポーツが盛んなまちづくり	13
	<b>基本目標3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち 【産業】</b>	<b>14</b>
	政策1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	14
	政策2 活力と魅力のある茶のまちづくり	15
	政策3 商工業が活気あるまちづくり	16
	政策4 人が訪れるまちづくり	17
	政策5 消費者が安心して暮らせるまちづくり	18
	<b>基本目標4 快適な環境で安心して暮らせるまち 【防災・環境・社会資本整備】</b>	<b>19</b>
	政策1 防災力を高めるまちづくり	19
	政策2 交通事故・犯罪のないまちづくり	20
	政策3 消防力を高めるまちづくり	21
	政策4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり	22
	政策5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり	23
	政策6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	24
	<b>基本目標5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち【コミュニティ・自助・共助・公助】</b>	<b>25</b>
	政策1 市民と行政との協働によるまちづくり	25
	政策2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	26
	政策3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり	27
	政策4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり	28

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち										作成部署
R2	政策	1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり										こども未来部
		SDGsゴール	1	2	3	4	5	16				
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度				
	政策事業費(予算)		3,089,045	3,325,242	政策費増減額				236,197			
	政策費/全体費				比較				108%			
	政策事業費(決算)		3,124,029		一般財源増減額				88,292			
	政策費/全体費				比較				110%			
コスト分析と課題												

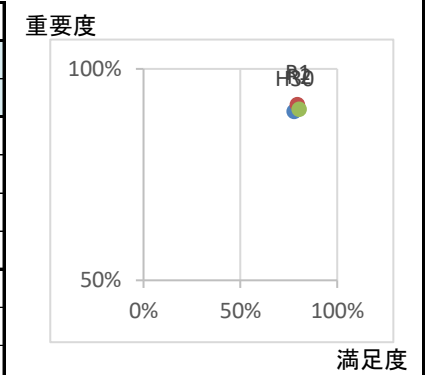
指標評価	総合計画										行政評価
	1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「子育てしやすいまち」だと思える市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	80.2	85.0	77.9	79.6	80.4	82.3	97.7%	B	B
	関連する施策										
	幼稚園に行くことを楽しみにしている園児の割合(幼稚園アンケート調査結果)	%	99.2	100.0	99.3	99.5	99.6	99.6	100.0%	B	B
	関連する施策										
	幼児施設入所待機児童数	人	1	0	0	0	0	1	100%(D/C)	S	B
	関連する施策										
	子育て支援センター利用者数	人	62,520	67,700	55,872	49,930	29,734	64,822	45.9%	現未	E
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	幼児施設の入所待機児童数は「国定義待機児童数0人」となったものの、すべての保護者のニーズに答えられていない状況であり、引き続き保育ニーズに応じた幼児施設の整備を進める必要がある。また、児童館・子育て支援センターは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2か月休館し、開館後も入場者数や時間を制限し開館しているため利用者数は激減している。保護者の就労形態の多様化や子育て環境が変化中、安心して子育てできるよう、子育て支援策の充実に努める必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R4年度拡充化○縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	
	1 教育・保育サービスの充実に取り組みます	こども政策課	B	A	拡充	拡充	①			
	2 幼児教育・保育の質の向上を目指します	こども政策課	現未	A	維持	維持	①			
3 安心して子育てできる環境を整備します	こども政策課	S	A	拡充	拡充	①				
4 子育て世代を応援します	こども政策課	A	C	維持	維持	⑤				

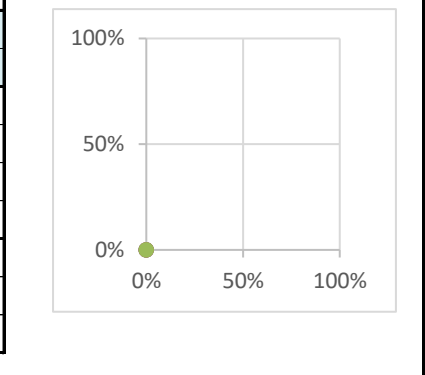
市民アンケート結果

総合評価

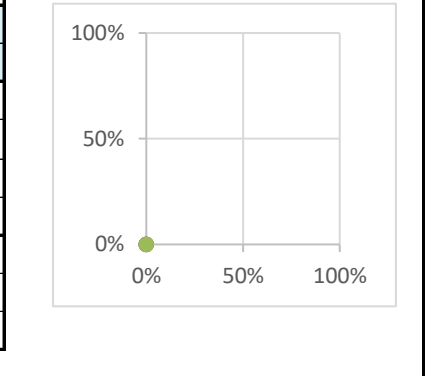
設問	「子育てしやすいまち」だと思える市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	80.2%	85.0%	77.9%	79.6%	80.4%	そう思う(満足)	15.8%
			91.6%	93.6%	94.6%	どちらかといえば思う	64.6%
重要度			89.9%	91.5%	90.4%	どちらかといえば思わない	13.2%
						そう思わない(不満)	1.6%
						重要	54.0%
						どちらかといえば重要	36.4%
						重要ではない	6.0%



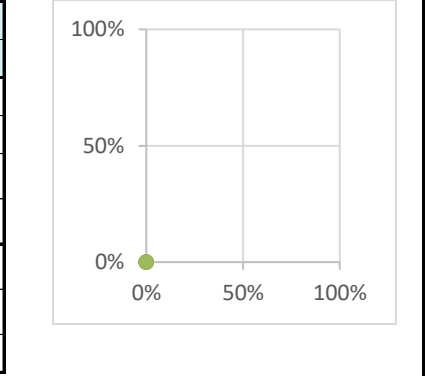
設問	「子育てしやすいまち」だと思える市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「子育てしやすいまち」だと思える市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「子育てしやすいまち」だと思える市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 「子育てしやすいまち」だと思える市民の満足度、重要度とも高い割合で推移している。市民の判断基準の一つは子育て環境の充実であると考えられる。満足度をさらに上げるため、子育て環境の整備に努めていく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方
第2期菊川市子ども・子育て支援事業計画に基づき各種事業を実施した。保育園・認定こども園は、待機児童対策により小規模事業所が開設され、定員が前年度より18人増加し1,222人となった。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている子育て世帯を支援する観点から、臨時特別給付金の支給に迅速に取り組んだ。社会環境の変化や核家族化などにより出生数が減少する中、安心して子どもを産み育てる社会の実現、子どもたちが健やかに育つことができる社会の実現に向け、引き続き保育ニーズに応じた幼児施設の整備を進めるとともに、安心して子育てできる環境を整備していく。						

政策評価シート

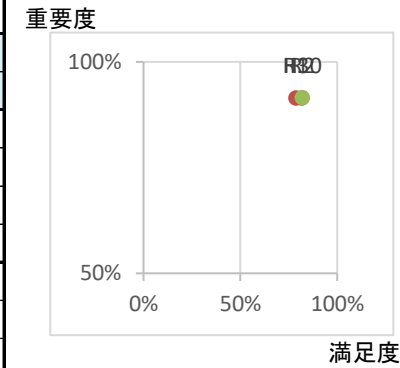
対象年度	基本目標	1 子どもがいいき育つまち										作成部署
R2	政策	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり										こども未来部
		SDGsゴール	1	2	3	4	16					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		201,667	197,936	政策費増減額					△ 3,731		
	政策費/全体費				比較					98%		
	政策事業費(決算)		182,122		一般財源増減額					1,015		
	政策費/全体費				比較					101%		
コスト分析と課題												
指標評価	総合計画										行政評価	
	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
		H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度				
	「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	82.5	88.0	81.8	78.7	82.0	84.9	96.6%	現未	E	
	関連する施策											
	乳幼児健診の受診率(1歳6か月健診と3歳健診の平均)	%	96.5	100.0	96.9	97.8	103.7	98.1	105.7%	S	B	
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
指標分析と課題	妊娠から出産、育児まで、切れ目のない支援を進める体制整備に取り組んだ。乳幼児健診の受診率は、新型コロナウイルス感染症により令和2年2月から3月に受診控えがあり、4月以降の受診が増加し100%を超える結果となっている。感染症のため未受診とならないよう受診勧奨を行ったことも一因と考える。しかしながら、新型コロナウイルス感染症は各種事業に影響を及ぼしている。今後、感染予防対策を徹底し事業に取り組む必要がある。											
評価分析	関連施策											
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R4年度					
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	拡大化○	縮減化△	
	1 母子保健事業の実施で親と子の健やかな成長を支援します	子育て応援課	S		A	維持	維持	①				
2 医療費助成で親と子の健康増進を推進します	子育て応援課	S		C	維持	維持	③					
3 子どもの成長や発達の支援に取り組みます	子育て応援課	S		A	維持	維持	①					

市民アンケート結果

総合評価

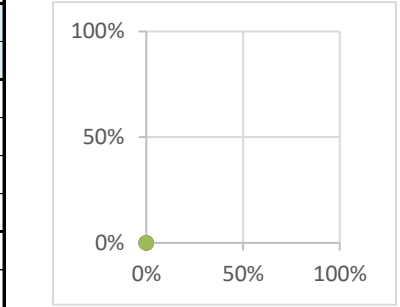
設問 「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度	82.4%	88.0%	81.8%	78.7%	82.0%	そう思う(満足)	18.0%
						どちらかといえば思う	64.0%
			93.0%	89.4%	93.2%	どちらかといえば思わない	12.5%
						そう思わない(不満)	1.3%
重要度			91.4%	91.4%	91.5%	重要	57.6%
						どちらかといえば重要	33.7%
						重要ではない	5.3%



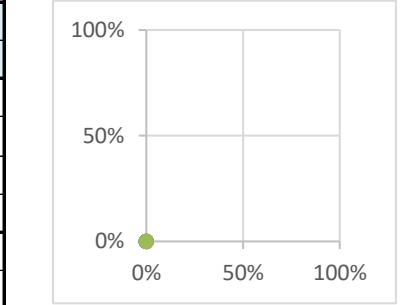
設問 「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



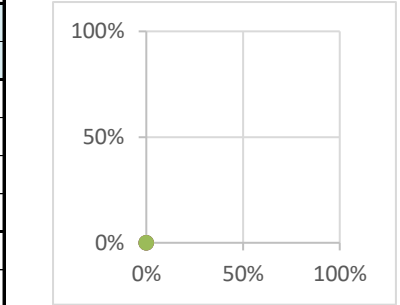
設問 「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問 「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の満足度、重要度も高い割合で推移している。市民満足度をさらに上げるため「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子どもを安心して生み、育てられるまちづくりを着実に進めていきたい。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 事業の進め方

令和2年度から、乳幼児の定期予防接種に新たにロタウイルスワクチン接種が加わり対象者への周知を確実にしスムーズにスタートすることができた。また、支援が必要となる子どもや家庭に対し関係機関と連携し個別のケースに応じた支援を行った。今後も感染予防対策を徹底し各種事業に取り組み、子どもを安心して生み、育てられるまちづくりを着実に進めていく。

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいいき育つまち										作成部署
R2	政策	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり										教育文化部
		SDGsゴール	1	2	4							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		1,151,630	1,059,293	政策費増減額						△ 92,337	
	政策費/全体費				比較						92%	
	政策事業費(決算)		1,364,366		一般財源増減額						225,307	
	政策費/全体費				比較						218%	
コスト分析と課題												

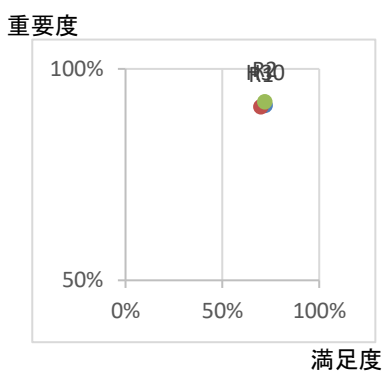
指標評価	総合計画										行政評価
	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	74.1	79.0	72.1	70.0	71.9	76.3	94.2%	現未	E
	関連する施策										
	学校施設の耐震化率	%	76.9	100.0	88.5	88.7	92.4	87.2	106.0%	B	B
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	今年度の加茂小学校の耐震補強・大規模改造工事など毎年校舎の耐震補強工事を実施することにより、着実に耐震化率が上昇している。しかし、市民の意見があまり上昇していないことを見ると学校施設だけの問題ではなく、通学路や防災体制など様々な教育環境を整え、市民に対し情報発信する必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	改善	拡大化○	縮減化△
	1 学校施設を適正に維持管理し耐震化や長寿命化に努めます	教育総務課	B		A	維持維持	①			
	2 安全で安心して教育が受けられる環境づくりに努めます	教育総務課	S		A	維持維持	①			
3 安全でおいしい給食を安定的に提供します	教育総務課	B		A	維持維持	①				

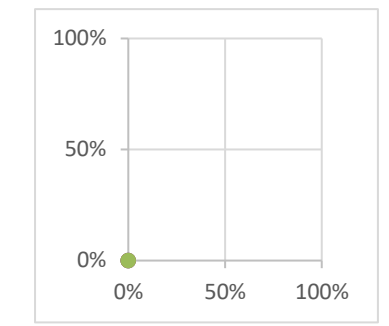
市民アンケート結果

総合評価

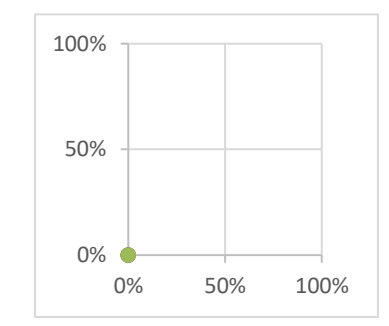
設問	「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	74.1%	79.0%	72.1%	70.0%	71.9%	そう思う(満足)	12.3%			
			91.3%	88.6%	91.0%	どちらかといえば思う	59.6%			
						どちらかといえば思わない	20.9%			
重要度			91.3%	91.0%	92.2%	重要	57.2%			
						どちらかといえば重要	35.0%			
						重要ではない	4.8%			



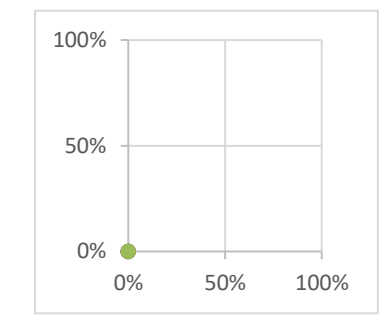
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析 学校での教育環境を整えることは、満足度、重要度ともに高い評価を受けている。毎年着実に耐震補強工事など、学校施設の整備を実施している結果である。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 事業内容
令和2年度は加茂小学校耐震補強工事を実施し、耐震化率を向上させることができた。今後も子どもの安全・安心な教育環境を整えるため、耐震化率100%を目標に実施していく。また、耐震化に合わせ、老朽化による施設の改修を行い、校舎の長寿命化を図る必要がある。						



政策評価シート

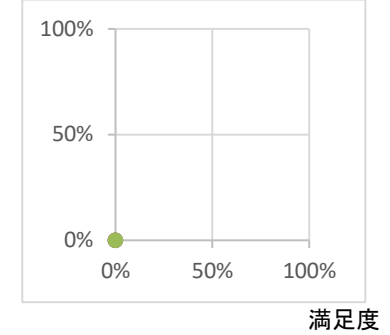
対象年度	基本目標	1 子どもがいいき育つまち										作成部署
R2	政策	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり										教育文化部
		SDGsゴール	4	17								
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	政策事業費(予算)			249,113	178,540	政策費増減額					△ 70,573	
	政策費/全体費					比較					72%	
	政策事業費(決算)			266,068		一般財源増減額					△ 23,708	
	政策費/全体費				比較					87%		
コスト分析と課題												
指標評価	総合計画										行政評価	
	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり										指標評価	
		単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標	
			A	B	C			D	C/D			
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度			
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<小学校>(学校評価アンケート調査結果)	%	92.0	93.0	91.0	90.8	94.1	92.4	101.8%	S	B	
	関連する施策											
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<中学校>(学校アンケート調査結果)	%	87.3	90.0	91.1	91.6	91.1	88.5	102.9%	S	B	
	関連する施策											
	「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<小学校>(学校アンケート調査結果)	%	91.9	93.0	90.3	91.6	92.6	92.4	100.2%	B	B	
関連する施策												
「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<中学校>(学校アンケート調査結果)	%	83.4	85.0	86.2	86.7	87.2	84.1	103.7%	S	B		
関連する施策												
「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<小学校>(学校アンケート調査結果)	%	90.6	91.0	92.8	91.6	93.2	90.8	102.6%	S	B		
関連する施策												
「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<中学校>(学校アンケート調査結果)	%	80.4	85.0	86.3	87.8	88.3	82.4	107.2%	S	B		
関連する施策												
全国学力学習状況調査における平均正答率(全国を100)	%	103.7	104.7	98.7	99.6	実施なし	104.1	—	—	—		
関連する施策												
指標分析と課題	「授業がわかる」、「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒は小学校に比べ中学校が低い数値となっている。ICTを活用した授業やきくがわ21世紀型授業により質の高い授業を行う必要がある。											
評価分析	関連施策											
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R4年度			
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性		拡充化○	縮減化△			
					コスト	成果	改善					
	1 ICT環境を生かした魅力ある授業づくりを推進します	学校教育課	B	S	A	拡充	拡充	①				
	2 「一人ひとりが生きる教育」を推進します	学校教育課	現未		A	拡充	拡充	①				
	3 中学校区等を核とした学びの環境づくりを推進します	学校教育課	S		A	拡充	拡充	①				

市民アンケート結果

総合評価

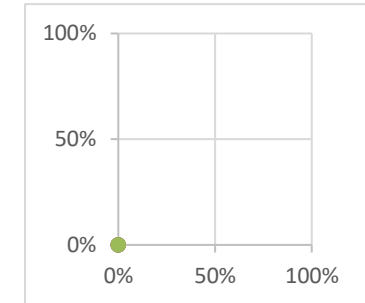
設問						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度	
満足度					そう思う(満足) どちらかといえば思う どちらかといえば思わない そう思わない(不満)	
重要度					重要 どちらかといえば重要 重要ではない	

重要度

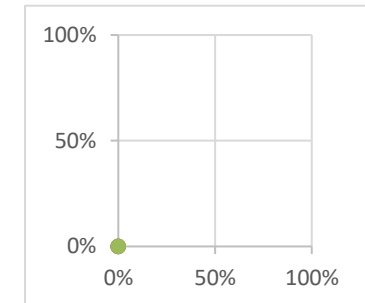


満足度

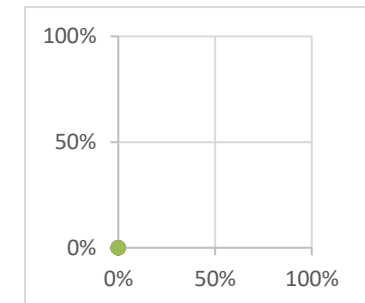
設問						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度	
満足度					そう思う(満足) どちらかといえば思う どちらかといえば思わない そう思わない(不満)	
重要度					重要 どちらかといえば重要 重要ではない	



設問						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度	
満足度					そう思う(満足) どちらかといえば思う どちらかといえば思わない そう思わない(不満)	
重要度					重要 どちらかといえば重要 重要ではない	



設問						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度	
満足度					そう思う(満足) どちらかといえば思う どちらかといえば思わない そう思わない(不満)	
重要度					重要 どちらかといえば重要 重要ではない	



結果分析					
------	--	--	--	--	--

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 事業内容

ICTを活用した授業やきくがわ21世紀型授業により、質の高い授業が行われている。今後も適用指導教室の運営や心の教育相談員の配置などによりきめ細かな指導を実施していく。

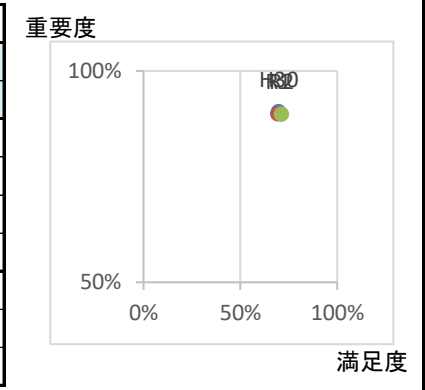
政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち								作成部署
R2	政策	5 人を育み、若者を育てるまちづくり								教育文化部
		SDGsゴール	4	17						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	政策事業費(予算)		25,128	20,296	政策費増減額				△ 4,832	
	政策費/全体費				比較				81%	
	政策事業費(決算)		15,796		一般財源増減額				△ 7,105	
					比較				71%	
コスト分析と課題										

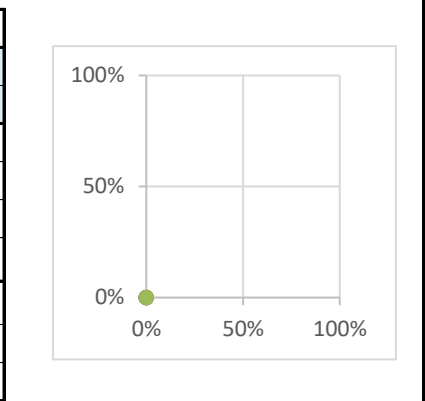
指標評価	総合計画										行政評価
	5 人を育み、若者を育てるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C	D	C/D				
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	72.4	82.0	69.7	69.5	71.3	76.7	93.0%	現未	E
	関連する施策										
	12歳以下の児童図書年間貸出冊数(1人あたり)	冊	28.7	33.0以上	35.7	34.9	28.2	30.6	92.2%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
関連する施策											
指標分析と課題	市民アンケートの結果は昨年比べて上昇しているが、新型コロナウイルス感染症対策による図書館の休館の影響で、貸出冊数は大きく減少している。今後は感染症対策をしながらの開館となるが、どこまで回復できるか対策を検討する必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	改善			
	1 地域で子どもを守り育てる取り組みを進めます	社会教育課	現未		B	縮小	縮小	①		
	2 家庭の教育力向上に取り組みます	社会教育課	B		B	維持	維持	①		
3 子どもの読書活動を推進します	図書館	現未		B	維持	維持	③			
総合評価										

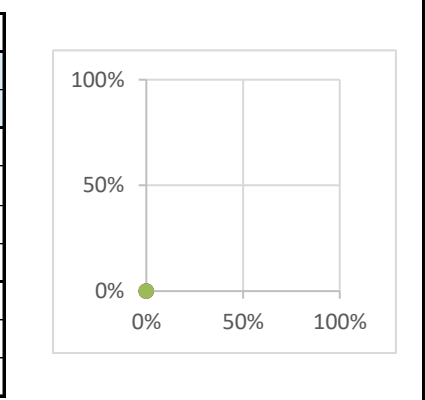
設問	「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	72.4%	82.0%	69.7%	69.5%	71.3%	そう思う(満足)	11.5%
			85.0%	84.8%	87.0%	どちらかといえば思う	59.8%
						どちらかといえば思わない	22.3%
そう思わない(不満)	2.2%						
重要度			90.3%	89.8%	89.7%	重要	46.1%
						どちらかといえば重要	43.6%
						重要ではない	6.9%



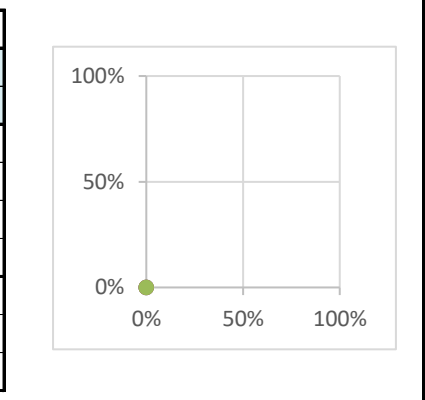
設問	「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
そう思わない(不満)							
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
そう思わない(不満)							
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
そう思わない(不満)							
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析: 満足度、重要度とも高い評価を受けている。しかし、約3割の市民は満足していない結果であり、すべてがこの事業によるものとは考えにくい。満足が得られるような事業を実施していく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 事業内容
新型コロナウイルス感染症対策として休館した期間はあったが、菊川文庫及び小笠原図書館の2館を開館し、図書の貸し出しやイベント等の事業を実施した。今後も地域や企業の協力をいただきながら、青少年の健全育成やその活動を支える人材の育成を行っていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R2	政策	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり										健康福祉部
		SDGsゴール	3									
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		129,550	345,747	政策費増減額				216,197			
	政策費/全体費				比較				267%			
	政策事業費(決算)		129,974		一般財源増減額				△ 89,057			
	政策費/全体費				比較				-3%			
コスト分析と課題												

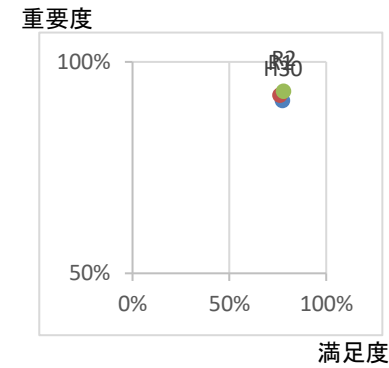
指標評価	総合計画										行政評価
	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「心身ともに健やかに生活できるまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	79.5	85.0	77.5	76.3	78.1	81.9	95.4%	現未	E
	関連する施策										
	「健康づくりに取り組む人が増えているまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	65.3	75.0	59.9	55.1	62.1	69.6	89.2%	現未	E
	関連する施策										
「健診や健康相談など病気の予防対策が充実しているまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	65.5	76.0	65.5	61.0	66.0	70.2	94.0%	B	C	
関連する施策											
一般成人「栄養のバランスに「気をつけている」と「少し気をつけている」人の割合(食と健康に関するアンケート調査結果)	%	88.4	90.0	R元実施	91.1	R5実施	89.1	—	—	—	
関連する施策											
一般成人「普段運動をしている」人の割合(食と健康に関するアンケート調査結果)	%	37.9	45.0	R元実施	36.5	R5実施	41.1	—	—	—	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	健康寿命の延伸と健康格差の縮小を図るため、すべての年代においてライフステージに応じた健康づくりに取り組み、生活習慣病の発症予防と重症化予防など、市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、健康的な生活習慣を実践するよう支援している。 指標結果では、令和2年度の実績値が令和2年度の期待値を下回る項目が多い結果となった。 課題としては、一人ひとりが若い時期から健康に関心を持ち、定期的な健診(検診)の受診を行うための支援や、健康への意識を高め正しい生活習慣を継続して実践することへの支援が必要である。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R4年度			
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 健康増進事業の実施によりみんなの健康を作ります	健康づくり課	B	B	維持	拡充	①			
	2 検診事業の実施によりみんなの健康を維持します	健康づくり課	現未	A	維持	維持	①			
3 心の健康事業の実施によりみんなの心の健康を作ります	健康づくり課	S	A	維持	維持	①				
4 予防接種事業の実施により疾病予防を行います	健康づくり課	現未	S	C	拡充	拡充	③			

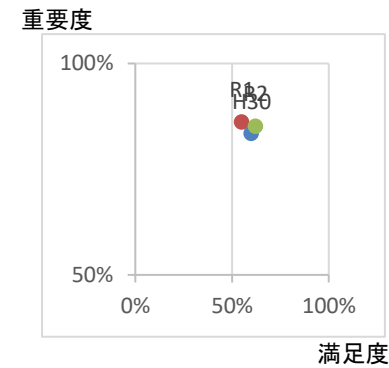
市民アンケート結果

総合評価

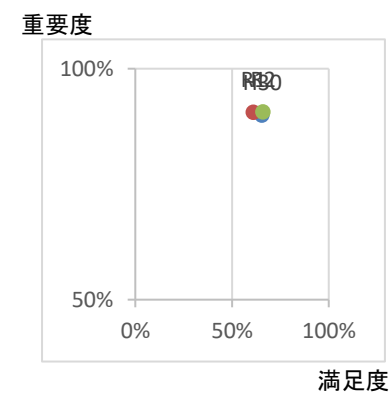
設問	「心身ともに健やかに生活できるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	79.4%	85.0%	77.5%	76.3%	78.1%	そう思う(満足)	15.5%
			91.2%	89.8%	91.9%	どちらかといえば思う	62.6%
重要度			90.8%	92.1%	93.0%	どちらかといえば思わない	18.1%
						そう思わない(不満)	1.3%
					重要	47.6%	
					どちらかといえば重要	45.4%	
					重要ではない	4.8%	



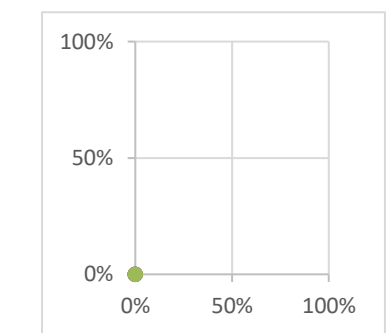
設問	「健康づくりに取り組む人が増えているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	65.3%	75.0%	59.9%	55.1%	62.1%	そう思う(満足)	8.7%
			79.9%	73.5%	82.8%	どちらかといえば思う	53.4%
重要度			83.4%	86.1%	85.1%	どちらかといえば思わない	33.5%
						そう思わない(不満)	1.7%
					重要	28.8%	
					どちらかといえば重要	56.3%	
					重要ではない	12.3%	



設問	「健診や健康相談など病気の予防対策が充実しているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	65.5%	76.0%	65.5%	61.0%	66.0%	そう思う(満足)	12.4%
			86.2%	80.3%	86.8%	どちらかといえば思う	53.6%
重要度			89.9%	90.5%	90.6%	どちらかといえば思わない	28.2%
						そう思わない(不満)	3.5%
					重要	43.3%	
					どちらかといえば重要	47.3%	
					重要ではない	7.0%	



設問	「健康寿命の延伸と健康格差の縮小を図るため、すべての年代においてライフステージに応じた健康づくりに取り組み、生活習慣病の発症予防と重症化予防など、市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、健康的な生活習慣を実践するよう支援している」						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
					重要		
					どちらかといえば重要		
					重要ではない		



結果分析 設問1から設問3までのすべてで、満足度は前年度から上昇しているが、目標値に対する満足度は未達成である。また、重要度も多少の増減はあるが上昇傾向にあり、健康づくりに関心を持つ方の増加が感じられる。今後も「すこやかプラン」に沿って健康寿命の延伸と健康格差の縮小に向けて取り組んでいく。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 事業の進め方
「適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくりを進めるためには、「第2次菊川すこやかプラン」に基づき、ライフステージごとに健康への意識を高めるために、すべての人が健康に関心を持つような取り組みが必要である。若い時期から健康に関心を持ってもらえるよう情報提供や啓発活動を行い、定期的な健診(検診)受診への支援や、健診結果を正しく理解するための知識の普及も行っていく。特に、高齢者は、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」により、個別的な支援を行っていく。今後も、市民一人ひとりが健康への意識を高め、正しい生活習慣を継続して実践できるよう支援していく。						



政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R2	政策	2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり										健康福祉部
		SDGsゴール	1	3	8	10	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度				
	政策事業費(予算)		674,912	668,233	政策費増減額				△ 6,679			
	政策費/全体費				比較				99%			
	政策事業費(決算)		680,570		一般財源増減額				4,783			
	政策費/全体費				比較				101%			
コスト分析と課題												

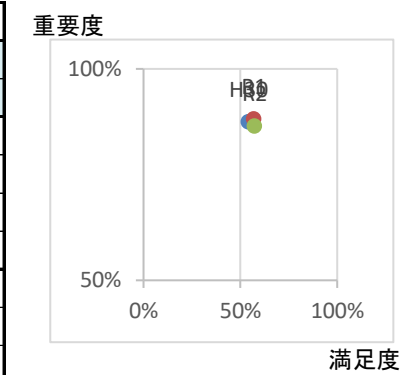
指標評価	総合計画										行政評価
	2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「高齢者が生きがいを持ち、健やかに暮らせるまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	59.9	70.0	54.1	57.0	57.3	64.4	89.0%	現未	E
	関連する施策										
	「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	55.9	66.0	55.6	54.8	60.0	60.4	99.3%	B	B
	関連する施策										
	要支援・要介護認定を受けていない高齢者の割合	%	85.2	82.8	86.7	86.1	85.7	84.5	101.4%	S	B
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	高齢者ができる限り住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心していきいきと暮らし続けることができるようにするため、地域包括支援センターの機能強化や介護予防の取り組みの強化、高齢者を支えるサービスの充実を図る取り組みを進めている。 指標結果では、令和2年度の実績値が現状値未満となっている項目があるが、実績値のポイントは年々上がっており、着実に取り組み効果が出てきていると考える。 課題としては、今後益々増加が見込まれる認知症への対応や、継続的な在宅医療・介護を提供するための関係機関の連携が求められている。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価				R4年度		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	拡大化○ 縮減化△
	1 高齢者の介護予防と生きがいづくりを進めます	長寿介護課	B		A	維持	拡充	②		
	2 地域包括ケアの体制を充実します	長寿介護課	S		A	拡充	拡充	①		
3 高齢者の生活を支援する介護サービスを推進します	長寿介護課	S		A	維持	維持	①			

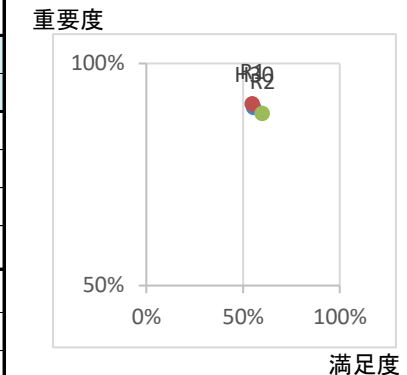
市民アンケート結果

総合評価

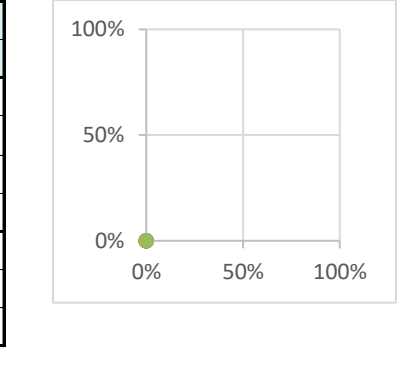
設問	「高齢者が生きがいを持ち、健やかに暮らせるまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	59.9%	70.0%	54.1%	57.0%	57.3%	そう思う(満足)	8.1%
						どちらかといえば思う	49.2%
			77.3%	81.4%	81.9%	どちらかといえば思わない	36.5%
					そう思わない(不満)	4.2%	
重要度			87.5%	88.1%	86.5%	重要	37.7%
						どちらかといえば重要	48.8%
						重要ではない	11.4%



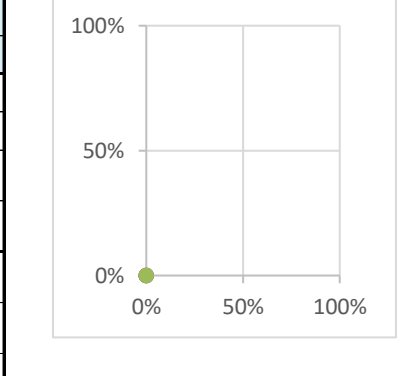
設問	「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	55.9%	66.0%	55.6%	54.8%	60.0%	そう思う(満足)	9.0%
						どちらかといえば思う	51.0%
			84.2%	83.0%	90.9%	どちらかといえば思わない	32.5%
					そう思わない(不満)	4.7%	
重要度			90.1%	90.9%	88.7%	重要	46.7%
						どちらかといえば重要	42.0%
						重要ではない	9.0%



設問	「高齢者ができる限り住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心していきいきと暮らし続けることができるようにするため、地域包括支援センターの機能強化や介護予防の取り組みの強化、高齢者を支えるサービスの充実を図る取り組みを進めている。」						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
					そう思わない(不満)		
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「高齢者ができる限り住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心していきいきと暮らし続けることができるようにするため、地域包括支援センターの機能強化や介護予防の取り組みの強化、高齢者を支えるサービスの充実を図る取り組みを進めている。」						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
					そう思わない(不満)		
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析  
設問1では、満足度は前年度から0.3ポイント増と上昇したが、目標値に対する達成度は81.9%と低い水準にあり、「生きがいを感じながら暮らせる」ための更なる取り組みが必要である。  
設問2では、満足度は前年度から5.2ポイント増と上昇し、目標値に対する達成度も90.9%となり、目標値達成に向けて順調に推移していると考えられる。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方
「高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり」を進めるためには、「第8期介護保険事業計画・第9次高齢者保健福祉計画」に基づき、重点施策として位置付ける「認知症施策の推進」、「介護予防の推進」等を計画的に進めていく必要がある。 認知症施策では、新オレンジプランや認知症施策推進大綱に沿って、認知症に対する理解の普及、予防等に取り組み、介護予防では、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」により、通いの場を活用し積極的関与を進めていく。 今後も、高齢者の身体的、精神的及び社会的特性を踏まえ、高齢者が健康で活動的に暮らせるよう支援していく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R2	政策	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり										健康福祉部
		SDGsゴール	1	3	10	11	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		242,954	275,478	政策費増減額				32,524			
	政策費/全体費				比較				113%			
	政策事業費(決算)		245,900		一般財源増減額				△ 9,377			
	政策費/全体費				比較				92%			
コスト分析と課題												

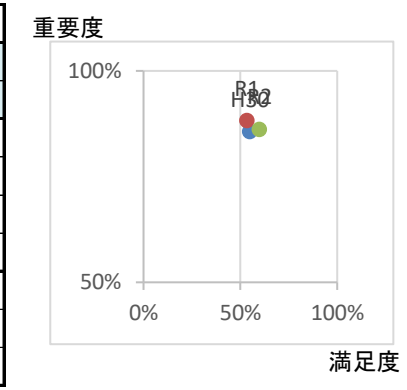
指標評価	総合計画										行政評価
	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「市民同士が地域で互いに支え合うことができているまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	65.0	75.0	54.9	53.4	59.9	69.4	86.3%	現未	E
	関連する施策										
	コミュニティ協議会の福祉部会に携わる人数	人	200	220	222	233	219	209	104.8%	B	B
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	少子高齢・人口減少等の社会構造が変化の中で、市民の複雑化・複合化した生活課題に寄り添い、関連部署や関係機関、市民等と連携したきめ細やかな支援を行うため、市民等が支え合い、地域をともに創っていくことのできる「地域共生社会」の実現に向けた取り組みを進めている。 指標結果の指標1では、令和2年度の実績値は前年度比6.5ポイントの上昇であるが、目標値からは大きく下回っている。 課題としては、改正社会福祉法に則った「重層的支援体制整備事業」等への適切な対応が求められている。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R4年度			
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	
	1 地域における市民の福祉活動を支援します	福祉課	B	A	拡充	拡充	①			
	2 地域福祉の担い手を育成・支援します	福祉課	現未	A	拡充	拡充	①			
3 地域のなかでの自立した生活を応援します	福祉課	現未	A	維持	維持	①				

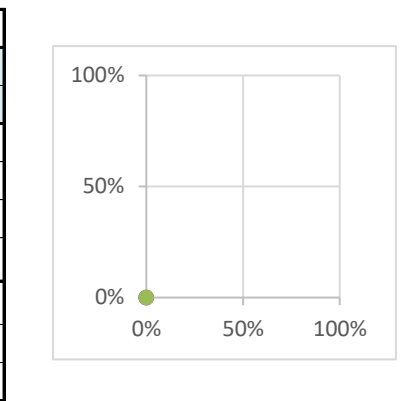
市民アンケート結果

総合評価

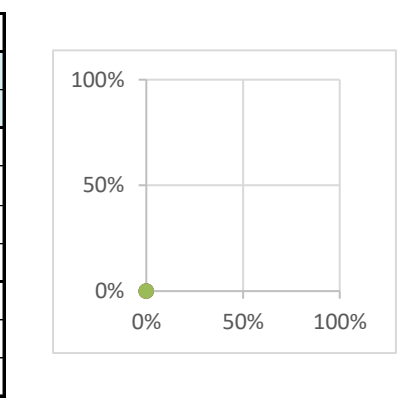
設問	「市民同士が地域で互いに支え合うことができているまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	64.9%	75.0%	54.9%	53.4%	59.9%	そう思う(満足)	6.9%			
						どちらかといえば思う	53.0%			
			73.2%	71.2%	79.9%	どちらかといえば思わない	32.8%			
						そう思わない(不満)	4.7%			
重要度			85.6%	88.2%	86.1%	重要	31.4%			
						どちらかといえば重要	54.7%			
						重要ではない	11.4%			



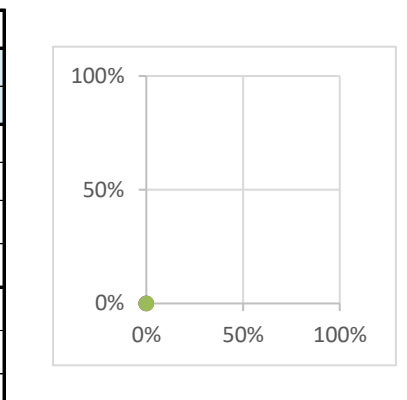
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析 満足度59.9%は前年度から6.5ポイント上昇しているものの、達成率が79.9%と依然として低い水準にある。また、重要度86.1%は前年度から2.1ポイント下落しているが、「地域共生」の必要性が市民の間に浸透していくことが、数値の上昇につながるかと考える。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方
「地域のなかで、互いに支え合うまちづくり」を進めるためには、ライフステージに沿った相談支援窓口の周知や、相談しやすい窓口づくり(重層的な支援体制づくり)、専門的な人材育成等が必要である。 各分野の要となる相談支援窓口間の連携はもとより、相談支援機関間の包括的な連携により、一人ひとりに寄り添った支援をしていく。また、相談支援や課題解決にあたっている身近な組織・人材との連携も強化していく。 今後も、地域福祉への理解の醸成や、地域福祉に関わる地域活動者の拡大を図るなど、断らない相談支援を行っていく。						

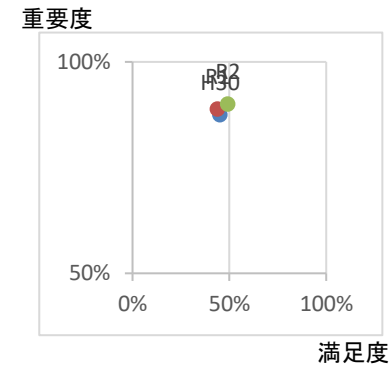
政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R2	政策	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり										健康福祉部
		SDGsゴール	3	8	10							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		959,884	1,007,718	政策費増減額				47,834			
	政策費/全体費				比較				105%			
	政策事業費(決算)		1,037,099		一般財源増減額				83,582			
	政策費/全体費				比較				133%			
コスト分析と課題												

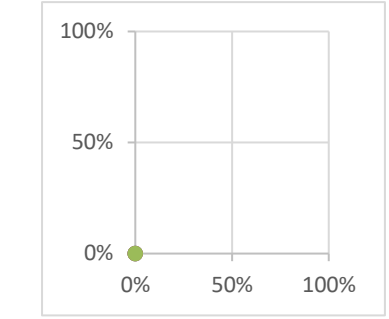
指標評価	総合計画										行政評価
	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C			D	C/D		
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	43.5	59.0	45.1	43.9	49.2	50.4	97.6%	B	C
	関連する施策										
	自立支援給付等決定対象者数	人	363	482	397	376	440	416	105.8%	B	B
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
関連する施策											
指標分析と課題	障がいの有無にかかわらず、全ての人が社会の一員として、様々な活動への参加を通じて互いの理解を深め、尊重し合い、支え合うことで、安心して地域での生活を継続することができるよう、障害福祉サービス事業を進めている。指標評価の指標1では、令和2年度の実績値は前年度比5.3ポイントの上昇であるが、期待値・目標値を下回る結果となった。課題としては、障害者手帳所持者数が増加する中で、障害福祉サービス提供体制の整備や福祉人材の確保が求められている。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性		拡充化○ 縮減化△		
	1 障がいのある人の自立した生活を支援します	福祉課	B	A	拡充	拡充	①			
	2 障がいのある人の地域での活動を促進します	福祉課	現未	A	拡充	拡充	②			
3 障がいのある子どもの福祉サービスを充実します	福祉課	S	A	拡充	拡充	①				

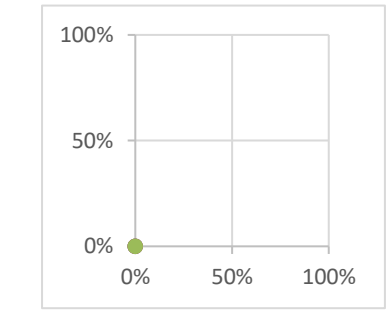
設問	「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	43.5%	59.0%	45.1%	43.9%	49.2%	そう思う(満足)	4.1%
			76.4%	74.4%	83.4%	どちらかといえば思う	45.1%
						どちらかといえば思わない	41.4%
重要度			87.5%	88.8%	90.0%	重要	42.7%
						どちらかといえば重要	47.3%
						重要ではない	7.4%



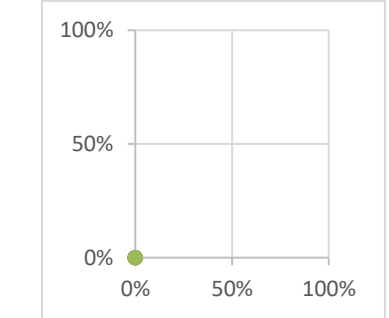
設問	「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 満足度49.2%は前年度から5.3ポイント上昇し、達成率も9.0ポイント上昇した。重要度90.0%は前年度から1.2%上昇し、僅かではあるが着実に増加している。障がいのある方が安心して暮らすことができるまちづくりへの関心の高さを感じる。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方
「障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくりを進めるためには、障がいのある方が住み慣れた地域で暮らしていけるよう、地域生活の継続支援や就労支援など、障害福祉サービスの提供体制を整え、地域全体で支える仕組みの実現が必要である。地域生活支援事業や障害福祉サービス事業など、利用者の状況やサービス利用動向を的確に把握し、サービスニーズに応えられるよう進めていく。今後も、障がいのある人が自立した日常生活や社会生活ができるよう、多様なニーズを踏まえた支援をしていく。						



政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち								作成部署	
R2	政策	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり								菊川病院	
	SDGsゴール	3	17								
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		1,142,751	1,198,453	政策費増減額			55,702			
	政策費/全体費				比較			105%			
	政策事業費(決算)		1,147,065		一般財源増減額			82,314			
	政策費/全体費				比較			107%			
コスト分析と課題											
指標評価	総合計画									行政評価	
	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」だと思える市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	46.7	62.0	44.1	48.0	55.3	53.5	103.4%	B	C
	関連する施策										
	菊川病院への紹介率	%	35.6	40.0	47.5	47.2	44.5	37.6	118.4%	S	A
	関連する施策										
	菊川病院からの逆紹介率	%	27.7	30.0	22.5	26.4	31.0	28.7	108.0%	S	B
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	当市の医療体制に対して年々満足度が向上していく中で、紹介患者の受け入れや在宅等への退院支援を進める専門部署の地域医療支援課を中心に、診療所や近隣病院、介護・福祉施設等との連携を図ることができた。今後も二次医療圏内で急性期医療を確保していくためには、機能分担や効率的な医療連携が必要となる。										
評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度拡充化○縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善		
	1 医療機関、介護・福祉施設などとの連携を進めます	地域医療支援課(病院)	S	S	A	維持維持	①				
	2 菊川市立総合病院の機能を充実します	病院総務課	現未		A	維持維持	①				
3 家庭医養成プログラムを推進します	経営企画課(病院)	B		A	維持維持	①					
4 市民と行政が連携して地域医療支援の充実を目指します	健康づくり課	S		A	維持維持	①					

市民アンケート結果

総合評価

設問										「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」だと思える市民の割合	
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							重要度	
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度						
満足度	46.7%	62.0%	44.1%	48.0%	55.3%	そう思う(満足)	8.1%				
			71.1%	77.4%	89.2%	どちらかといえば思う	47.2%				
						どちらかといえば思わない	36.3%				
						そう思わない(不満)	6.6%				
重要度			90.6%	94.4%	93.3%	重要	56.3%				
						どちらかといえば重要	37.0%				
						重要ではない	4.9%				
設問											
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度						
満足度						そう思う(満足)					
						どちらかといえば思う					
						どちらかといえば思わない					
						そう思わない(不満)					
重要度						重要					
						どちらかといえば重要					
						重要ではない					
設問											
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度						
満足度						そう思う(満足)					
						どちらかといえば思う					
						どちらかといえば思わない					
						そう思わない(不満)					
重要度						重要					
						どちらかといえば重要					
						重要ではない					
設問											
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度						
満足度						そう思う(満足)					
						どちらかといえば思う					
						どちらかといえば思わない					
						そう思わない(不満)					
重要度						重要					
						どちらかといえば重要					
						重要ではない					
結果分析										「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」に対する市民の満足度は年々向上し、重要度についても非常に高い数値を示している。今後は要介護者、慢性疾患患者、認知症患者の増加が予測され、地域包括ケアシステムの構築が急務となる中で、当院や家庭医療センターが担う役割は益々重要になると予測される。	
総合判定評価			A	見直し・検討無し			R4年度の方向性	コスト	成果	改善	
							維持→	維持→	①	事業の進め方	
医療資源が不足する中東遠2次医療圏の中で当院が現在の診療機能を維持して行くためには医師の確保は最重要課題である。今後も引き続き浜松医科大学や近隣病院と連携し、臓器別専門医と家庭医の招聘を進める。また、地域包括ケアシステムの構築に向けて、家庭医療センターや関係機関との連携体制を確立し、繋ぐ医療体制の実現を目指していく。											



政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R2	政策	6 生涯にわたり学べるまちづくり										教育文化部
		SDGsゴール	4	11	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		75,255	76,168	政策費増減額					913		
	政策費/全体費				比較					101%		
	政策事業費(決算)		74,885		一般財源増減額					2,130		
	政策費/全体費				比較					103%		
コスト分析と課題												

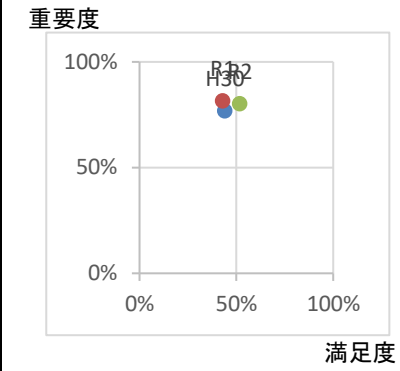
指標評価	総合計画										行政評価
	6 生涯にわたり学べるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思 う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	51.6	62.0	44.0	43.0	51.8	56.2	92.2%	B	B
	関連する施策										
	生涯学習講座の参加者数	人	515	600	375	428	30	553	5.4%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	市民アンケートの結果は上昇しているが、新型コロナウイルス感染症対策により生涯学習講座の中止により参加者数は激減している。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度 拡充化○ 縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性 コスト	成果	改善		
	1 生涯学習活動を推進します	社会教育課	現未		A	縮小	縮小	①		
	2 読書環境の整備に努めます	図書館	B		A	拡充	維持	②		
3 読書機会の提供・読書活動の啓発に努めます	図書館	現未		A	拡充	拡充	①			

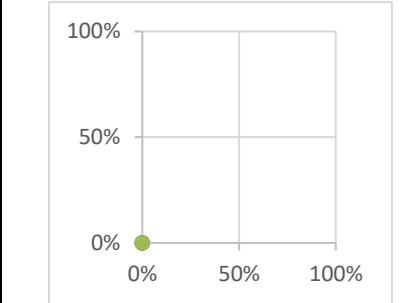
市民アンケート結果

総合評価

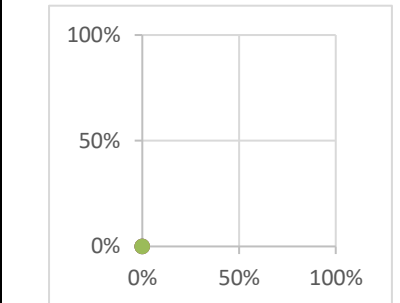
設問	「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思 う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	51.6%	62.0%	44.0%	43.0%	51.8%	そう思う(満足)	6.3%
						どちらかといえば思う	45.5%
			71.0%	69.4%	83.5%	どちらかといえば思わない	40.3%
						そう思わない(不満)	5.8%
重要度			76.8%	81.5%	80.1%	重要	25.1%
						どちらかといえば重要	55.0%
						重要ではない	17.6%



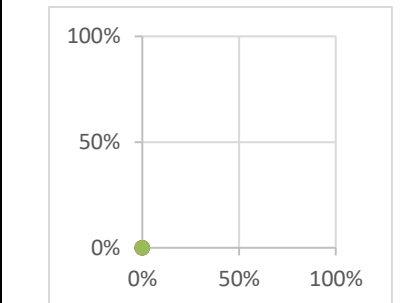
設問	「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思 う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思 う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思 う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 重要度は高いが市民の満足度が低い状況となっている。しかし、満足度は昨年と比較して上昇することができている。2つの図書館の運営や各種講座を実施してきた成果であると考え。

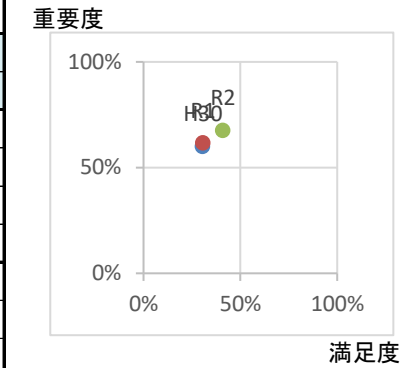
総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 事業内容

生涯学習だよりや各種講座など新型コロナウイルス感染症対策により中止となったが、今後は対策を講じた上での開催を検討する必要がある。市民に対し生涯にわたり学習の機会を提供できるよう継続して実施していく。

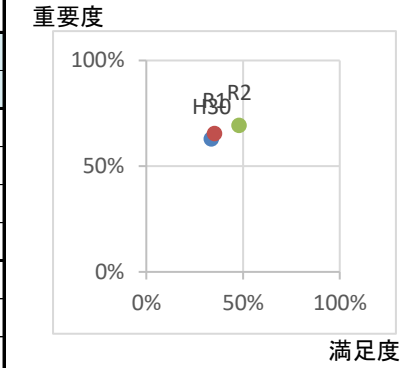
政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち								作成部署	
R2	政策	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり								教育文化部	
		SDGsゴール	4	11							
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)						
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	政策事業費(予算)			146,113	287,516	政策費増減額				141,403	
	政策費/全体費					比較				197%	
	政策事業費(決算)			155,520		一般財源増減額				15,451	
	政策費/全体費				比較					113%	
コスト分析と課題											
総合計画											
指標評価	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり										行政評価
		単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
		%	39.1	54.0	30.5	30.7	41.0	45.7	89.7%	B	C
		「気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)									
		関連する施策									
		%	40.8	56.0	33.6	35.3	48.0	47.6	100.8%	B	B
		「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)									
		関連する施策									
		文化祭の来場者数									
	人	3,250	4,000	2,432	2,637	0	3,583	0.0%	現未	E	
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	指標分析と課題	市民アンケートの結果から芸術文化活動や歴史・文化遺産が少しずつ定着している。しかし、新型コロナウイルス感染症対策により文化祭は中止となった。									
評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度拡充化○縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善		
	1 鑑賞機会の提供に努めます	社会教育課	現未		A	維持維持			①		
2 市民の文化・芸術活動を支援します	社会教育課	現未		A	拡充拡充			①			
3 文化財の保存・周知・活用を推進します	社会教育課	現未		A	拡充拡充			①			
総合評価											

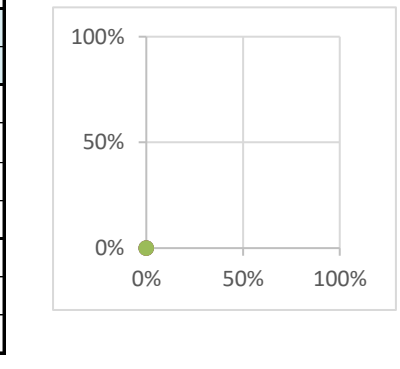
設問	「気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	39.2%	54.0%	30.5%	30.7%	41.0%	そう思う(満足)	4.2%
						どちらかといえば思う	36.8%
			56.5%	56.9%	75.9%	どちらかといえば思わない	47.6%
					そう思わない(不満)	8.7%	
重要度			60.0%	61.7%	67.5%	重要	14.7%
						どちらかといえば重要	52.8%
						重要ではない	29.9%



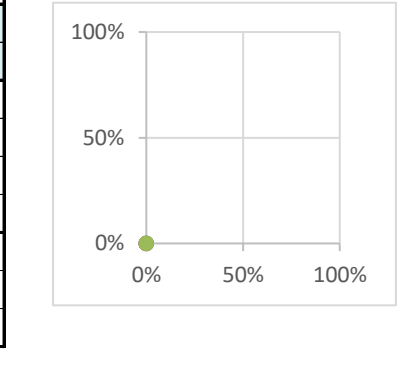
設問	「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	40.8%	56.0%	33.6%	35.3%	48.0%	そう思う(満足)	4.1%
						どちらかといえば思う	43.9%
			60.0%	63.0%	85.7%	どちらかといえば思わない	42.2%
					そう思わない(不満)	7.3%	
重要度			62.8%	65.4%	69.3%	重要	15.7%
						どちらかといえば重要	53.6%
						重要ではない	28.5%



設問	「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
					そう思わない(不満)		
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
					そう思わない(不満)		
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 重要度に比べて満足度が低い状況となっている。市民には様々なニーズがあるため、それぞれが必要とする活動を提供する必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 事業内容

文化活動として、多くの事業が中止となったが、地域文化や地域資源の発信に努め、文化に触れる機会を提供していく。また、文化会館アエルなどの施設が安全に利用できるよう整備計画により順次設備更新などにより長寿命化を実施していく。

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R2	政策	8 スポーツが盛んなまちづくり										教育文化部
		SDGsゴール	3	11	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	政策事業費(予算)			105,640	81,971	政策費増減額				△ 23,669		
	政策費/全体費					比較				78%		
	政策事業費(決算)			111,310		一般財源増減額				△ 1,855		
	政策費/全体費				比較					97%		
コスト分析と課題												

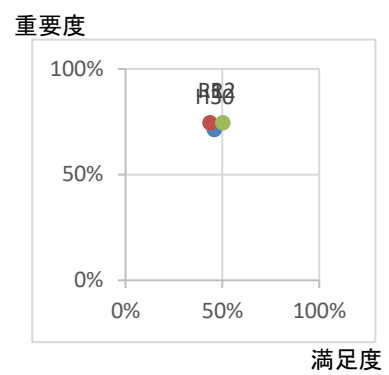
指標評価	総合計画										行政評価
	8 スポーツが盛んなまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	54.0	59.0	45.9	43.8	50.4	56.2	89.7%	現未	C
	関連する施策										
	スポーツ施設年間利用者数	人	244,924	255000以上	490,778	469,630	331,354	249,402	132.9%	S	A
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	「誰もがスポーツに取り組めるまち」と思う市民の割合は昨年に比べて上昇しているが、新型コロナウイルス感染症対策により市主催や体育協会主催など多くの事業が中止となり、スポーツ施設の利用者は激減している。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価				R4年度		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 誰もがスポーツに触れ合う機会を創出します	社会教育課	現未		A	維持	維持	①		
	2 スポーツ活動の場を提供します	社会教育課	S		A	維持	維持	①		
3 スポーツ団体・スポーツ活動を支援します	社会教育課	現未		A	維持	維持	①			

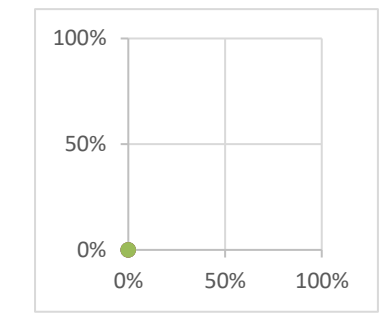
市民アンケート結果

総合評価

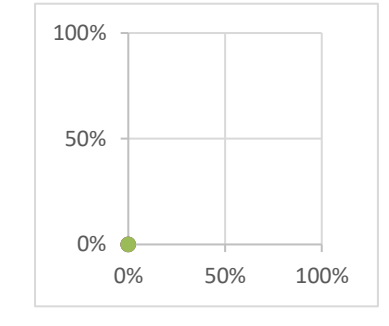
設問	「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	54.0%	59.0%	45.9%	43.8%	50.4%	そう思う(満足)	6.1%
						どちらかといえば思う	44.3%
			77.8%	74.2%	85.4%	どちらかといえば思わない	40.7%
						そう思わない(不満)	6.7%
重要度			71.3%	74.4%	74.4%	重要	18.2%
						どちらかといえば重要	56.2%
						重要ではない	23.4%



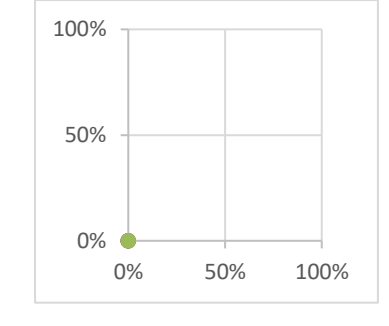
設問	「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 満足度は年々上昇しているが、約50%と低い状況である。市民に多様なニーズに対応し、満足度を上げるよう努めていく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 事業の進め方
令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策により市主催事業、体育協会主催事業など多くの大会やイベントが中止となった。令和3年度は対策を行いながらの開催方法を検討し事業を実施する。また、市民が安全・安心に施設が利用できるよう適正な維持、管理及び改修を行っていく。						



政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち										作成部署
R2	政策	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり										建設経済部
		SDGsゴール	2	5	8	15						
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	政策事業費(予算)			380,473	310,736	政策費増減額					△ 69,737	
	政策費/全体費					比較					82%	
	政策事業費(決算)			443,738		一般財源増減額					38,623	
	政策費/全体費				比較					122%		
コスト分析と課題												

指標評価	総合計画										行政評価	
	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり										指標評価	
		単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価		
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度			
		%	78.0	83.0	76.1	74.3	79.7	80.2	99.4%	B	B	
			「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合(市民アンケート調査結果)									
			関連する施策									
			地域特産作物の開発数									
		件	0	4(累計)	1	1	2	2	100.0%	B	D	
			関連する施策									
		関連する施策										
		関連する施策										
		関連する施策										
		関連する施策										
	指標分析と課題	経営基盤の強化を図るためにも高収益作物との複合経営を進めており、順調に転換面積が増加している。また、法人化や農業法人についても増加している。地域特産物については「ちゃ豆」に続き「オリーブ」が定着し販売を開始した。引き続き次世代農業を目指し各種事業を進めていく。										

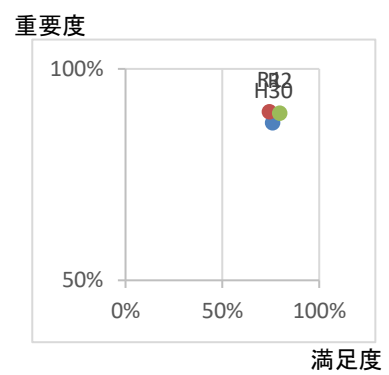
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R4年度			
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 菊川型農業モデルの創出を図ります	農林課	A	A	拡充	拡充	①			
	2 経営感覚に優れた担い手の確保と育成を図ります	農林課	S	A	拡充	拡充	①			
	3 農業経営基盤の強化を促進します	農林課	B	A	拡充	拡充	①			
4 農地の適正な管理と利用を促進します	農林課	S	A	拡充	拡充	①				
5 農業生産基盤の整備と維持管理を行います	農林課	B	A	拡充	拡充	①				

市民アンケート結果

総合評価

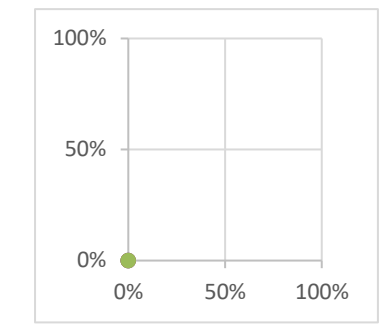
設問 「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度	77.9%	83.0%	76.1%	74.3%	79.7%	そう思う(満足)	18.8%
			91.7%	89.5%	96.0%	どちらかといえば思う	60.9%
						どちらかといえば思わない	15.7%
重要度			87.2%	89.8%	89.5%	重要	40.7%
						どちらかといえば重要	48.8%
						重要ではない	8.3%



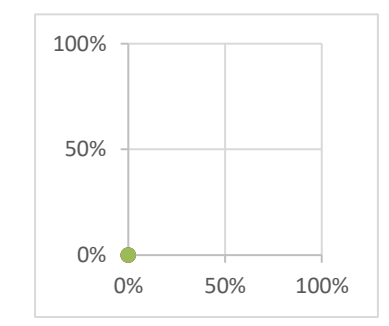
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



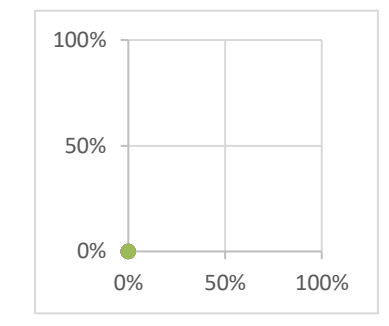
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 市民アンケート結果では昨年度より上昇した。また、現状値以上となった。しかし今後も各種事業を推進するとともに実施している事業を周知して、市民意識も向上させていく必要があります。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方

高齢化による後継者不足等農業を取り巻く環境は年々厳しくなっている。引き続き、経営基盤の強化や担い手の確保のためにも、各種事業を実施していく。また、農業委員会等と連携し、荒廃農地解消も進めていく必要がある。



政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち								作成部署
R2	政策	2 活力と魅力のある茶のまちづくり								建設経済部
		SDGsゴール	2	8						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	政策事業費(予算)		505,064	21,601	政策費増減額				△ 483,463	
	政策費/全体費				比較				4%	
	政策事業費(決算)		20,929		一般財源増減額				△ 483,067	
	政策費/全体費				比較				-393%	
コスト分析と課題										

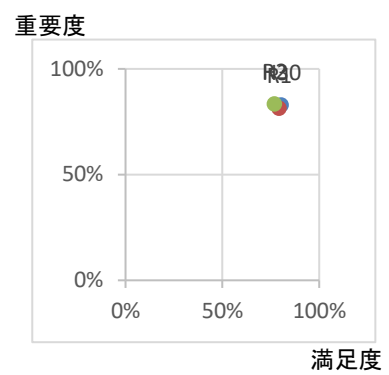
指標評価	総合計画										行政評価
	2 活力と魅力のある茶のまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「茶の生産が盛んなまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	82.7	88.0	80.4	79.3	77.0	85.1	90.5%	現未	E
	関連する施策										
	茶園管理組織経営体数	経営体	5	16(累計)	6	6	6	10	60.0%	C	D
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	新規に農地所有適格法人になった法人はなかった。新茶工場を整備した会社については、今後農地所有適格法人登録の手続きを進めることとなっている。他の法人についても協議し進めていく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 活力ある茶業の振興を推進します	茶業振興課	C		A	維持	維持	①		
	2 茶の消費拡大を図ります	茶業振興課	現未		B	維持	維持	①		
3 茶文化を継承します	茶業振興課	現未		A	維持	維持	②			

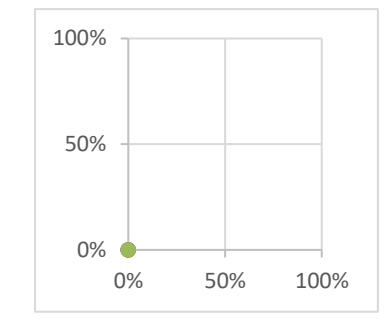
市民アンケート結果

総合評価

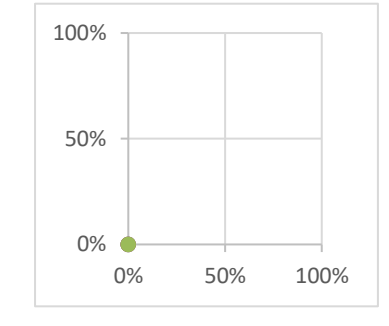
設問	「茶の生産が盛んなまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	82.7%	88.0%	80.4%	79.3%	77.0%	そう思う(満足)	31.2%
			91.4%	90.1%	87.5%	どちらかといえば思う	45.8%
重要度			82.8%	81.4%	83.3%	どちらかといえば思わない	17.2%
						そう思わない(不満)	4.5%
						重要	38.6%
						どちらかといえば重要	44.7%
						重要ではない	14.7%



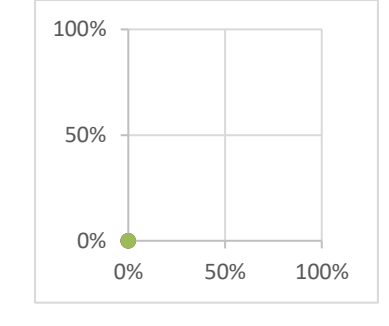
設問	「茶の生産が盛んなまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「茶の生産が盛んなまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「茶の生産が盛んなまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 市民アンケート結果については、現状値未達であり、更に昨年度より下降した。茶業が厳しい現状に対して、市民も盛んではなくなっていると感じている結果である。茶経営体の強化とともに、消費拡大・販路拡大に向けPRを行っていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方
茶業関係者などとの協議を重ね、課題の洗い出しを行い、今後の茶業に関する対応策・支援策を整理していく。また、2022年度(令和4年度)までの菊川市茶業振興計画の見直しを令和4年度に行うため、本年度より準備を進める。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち										作成部署
R2	政策	3 商工業が活気あるまちづくり										建設経済部
		SDGsゴール	4	5	8	9	10					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		629,239	660,206	政策費増減額					30,967		
	政策費/全体費				比較					105%		
	政策事業費(決算)		758,359		一般財源増減額					26,441		
	政策費/全体費				比較					69%		
コスト分析と課題												

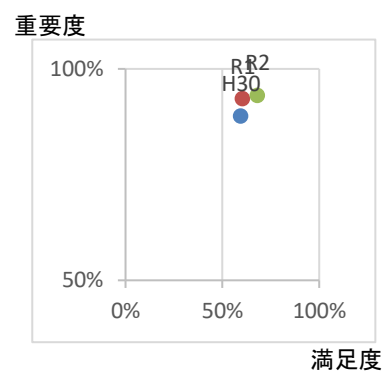
指標評価	総合計画										行政評価
	3 商工業が活気あるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「買物がしやすいまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	60.9	71.0	59.5	60.5	68.2	65.4	104.3%	B	B
	関連する施策										
	「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	41.5	57.0	41.5	41.3	53.8	48.4	111.2%	B	B
	関連する施策										
	事業所数(二次産業・三次産業の計)	事業所	1,738	1,800	R元実施	未公表	1,918(R元)	1,766	108.6%	S	B
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	指標については経済センサス調査の結果を実績値としており、令和元年実施の経済センサス基礎調査結果によると事業所数は現状値より増加している。リーマンショックの影響により減少していたが、高齢化に伴い老人福祉事業所や介護事業所が増加した。今のところ市内においてはコロナ禍の影響による事業所の減少は見られないが、今後は注視し、商工会等関係団体と連携し、支援策を考えていく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 就労機会の拡大を図ります	商工観光課	S		A	維持	維持	③		
	2 がんばる事業者を応援します	商工観光課	現未		A	維持	維持	③		
3 市内企業の応援と進出企業の獲得に努めます	商工観光課	B		A	維持	維持	③			

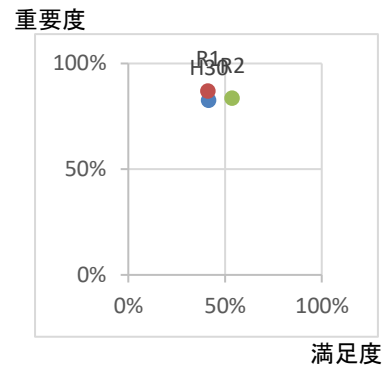
市民アンケート結果

総合評価

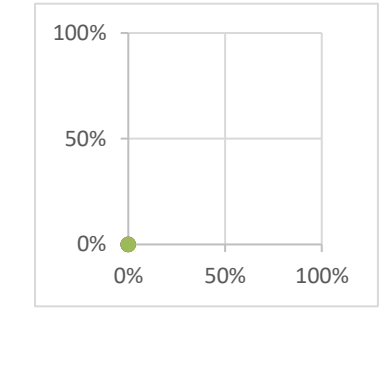
設問	「買物がしやすいまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	60.9%	71.0%	59.5%	60.5%	68.2%	そう思う(満足)	22.2%
						どちらかといえば思う	46.0%
			83.8%	85.2%	96.1%	どちらかといえば思わない	23.8%
重要度			88.8%	92.9%	93.7%	重要	51.1%
						どちらかといえば重要	42.6%
						重要ではない	4.7%



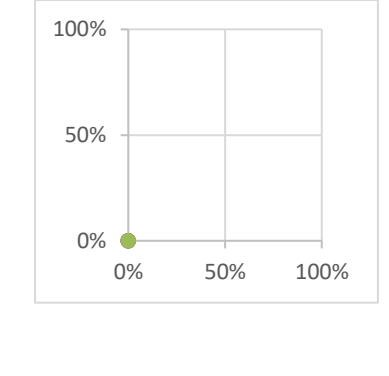
設問	「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	41.5%	57.0%	41.5%	41.3%	53.8%	そう思う(満足)	6.2%
						どちらかといえば思う	47.6%
			72.8%	72.5%	94.4%	どちらかといえば思わない	37.1%
重要度			82.5%	86.8%	83.6%	重要	32.9%
						どちらかといえば重要	50.7%
						重要ではない	14.1%



設問	「買物がしやすいまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 市民アンケート結果については、2項目ともに現状値以上、昨年度以上となった。民間開発等による商業施設や商店、住宅地の開発により上昇したと考えられる。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方
行政としても商工会との連携や企業誘致を進めていく必要がある。また、人口減少の抑制のためにもまちづくりを行っていく必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち										作成部署
R2	政策	4 人が訪れるまちづくり										建設経済部
		SDGsゴール	8	11	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	政策事業費(予算)			32,863	38,454	政策費増減額					5,591	
	政策費/全体費					比較					117%	
	政策事業費(決算)			44,907		一般財源増減額					△ 202	
	政策費/全体費				比較					99%		
コスト分析と課題												

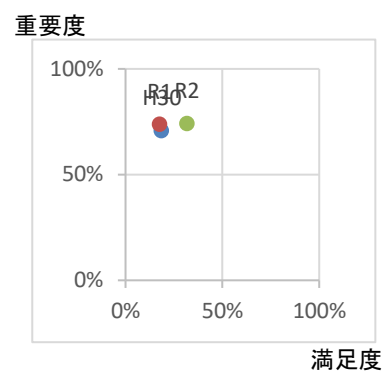
指標評価	総合計画										行政評価							
	4 人が訪れるまちづくり										単位	指標評価						
											現状値 A	目標値 B	実績値 C	期待値 D	達成率 C/D	評価		
	「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思う市民の割合(市民アンケート調査結果)										%	D						
	関連する施策										H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度	
	観光交流客数										人	E						
	関連する施策										364,388	400,000	366,907	343,097	326,838	380,216	86.0%	現未
	関連する施策																	
	関連する施策																	
	関連する施策																	
指標分析と課題																		

評価分析	関連施策										
	施策名		担当課		指標評価		総合判定評価			R4年度	
					成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善
	1 市民力による魅力発信を支援します		商工観光課		現未	A	維持	維持	①		
	2 マスコットを活用した情報発信を行います		商工観光課		B	A	維持	維持	③		
3 広域市町と連携した交流人口の増加を図ります		商工観光課		現未	A	維持	維持	③			

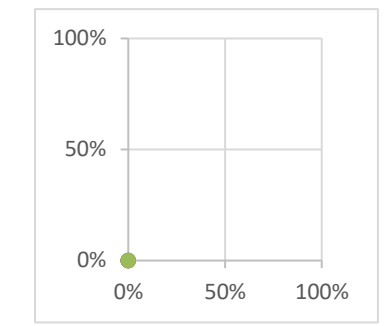
市民アンケート結果

総合評価

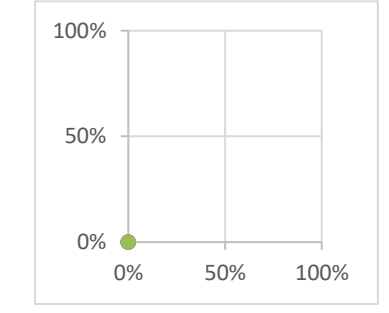
設問										「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思う市民の割合	
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度						
満足度	20.7%	41.0%	18.6%	17.6%	31.7%	そう思う(満足)	2.1%				
						どちらかといえば思う	29.6%				
			45.4%	42.9%	77.3%	どちらかといえば思わない	51.1%				
重要度			70.8%	73.8%	74.1%	重要	22.5%				
						どちらかといえば重要	51.6%				
						重要ではない	23.5%				



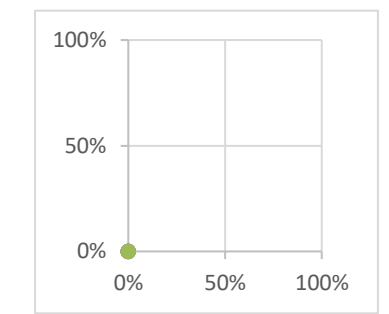
設問									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度				
満足度						そう思う(満足)			
						どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない			
重要度						重要			
						どちらかといえば重要			
						重要ではない			



設問									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度				
満足度						そう思う(満足)			
						どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない			
重要度						重要			
						どちらかといえば重要			
						重要ではない			



設問									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度				
満足度						そう思う(満足)			
						どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない			
重要度						重要			
						どちらかといえば重要			
						重要ではない			



結果分析 市民アンケート結果については、現状値以上、昨年度以上となった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各種イベントや体験型観光ツアーが中止したが、市民意識が下がらなかったことは、次に繋げていかなければいけない。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方
コロナ禍の影響により様々なイベント等が中止、縮小となっているが、withコロナで知恵を出し、商工会や観光協会等関係団体と連携し、交流人口を増やしていく必要がある。						



政策評価シート

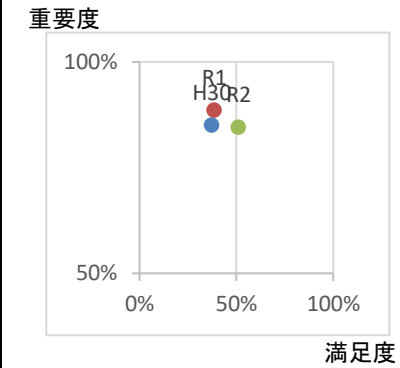
対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち							作成部署		
R2	政策	5 消費者が安心して暮らせるまちづくり							建設経済部		
		SDGsゴール	16								
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)						
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	政策事業費(予算)			2,903	2,760	政策費増減額				△ 143	
	政策費/全体費					比較				95%	
	政策事業費(決算)			2,700		一般財源増減額				△ 711	
	政策費/全体費					比較				52%	
コスト分析と課題											
指標評価	総合計画										行政評価
	5 消費者が安心して暮らせるまちづくり										
		単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C			D	C/D		
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
		%	45.3	60.0	37.2	38.6	51.1	51.8	98.6%	B	C
		「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)									
		消費生活センター相談件数									
		件	197	100	252	228	235	154	65.5%(D/C)	現未	E
		関連する施策									
評価分析	関連施策										
	施策名	担当課			指標評価		総合判定評価			R4年度	
					成果1	成果2	判定評価	R4の方向性		拡充化○	
								コスト	成果	改善	
										縮減化△	
	1 消費者被害の軽減に努めます	商工観光課			現未		A	維持	維持	③	
	2 消費生活センターの機能を強化し、消費者の保護に努めます	商工観光課			現未		A	維持	維持	③	
	指標分析と課題										
	消費生活センター相談件数は増加したが、センターが機能している側面もある。引き続き、被害防止のための啓蒙活動と消費生活センターの周知を図り、消費者相談を受けていく。										

市民アンケート結果

総合評価

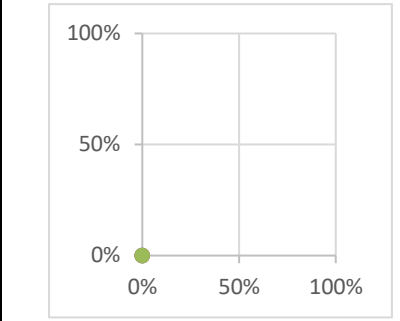
設問 「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」と思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度	45.3%	60.0%	37.2%	38.6%	51.1%	そう思う(満足)	5.6%
						どちらかといえば思う	45.5%
			62.0%	64.3%	85.2%	どちらかといえば思わない	38.0%
						そう思わない(不満)	8.1%
重要度			85.0%	88.6%	84.5%	重要	39.1%
						どちらかといえば重要	45.4%
						重要ではない	13.3%



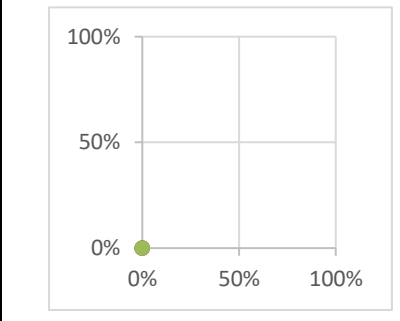
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



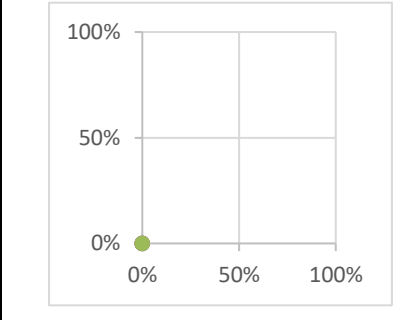
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 市民アンケート結果については、現状値以上、昨年度以上となった。更に関係団体等の協力を得て、啓蒙活動を行い未然防止を図っていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方

悪徳商法や特殊詐欺が年々巧妙化している。コロナ禍によりさらに広がっていく可能性があるため、引き続き啓蒙活動を行うとともに、消費生活センターへの相談を周知していく。



政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち										作成部署
R2	政策	1 防災力を高めるまちづくり										危機管理部
		SDGsゴール	11	13	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		306,173	238,517	政策費増減額						△ 67,656	
	政策費/全体費				比較						78%	
	政策事業費(決算)		282,068		一般財源増減額						△ 51,958	
	政策費/全体費				比較						65%	
コスト分析と課題												

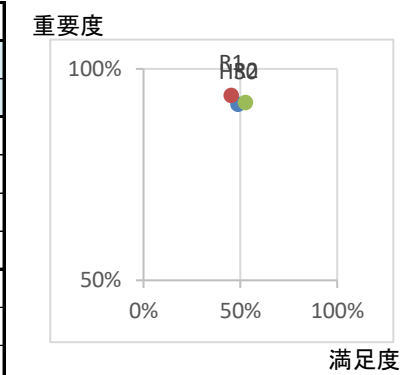
指標評価	総合計画										行政評価
	1 防災力を高めるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「災害に備え防災対策が整っているまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	50.4	60.0	48.8	45.3	52.8	54.7	96.5%	B	C
	関連する施策										
	「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	68.1	78.0	65.3	64.4	63.9	72.5	88.1%	現未	E
	関連する施策										
	住宅の耐震化率	%	84.2	95.0	87.3	87.9	93.7	89.0	105.3%	B	B
	関連する施策										
	地域防災訓練(12月)への参加者数	人	14,318	15,750	14,488	16,567	537	14,954	3.6%	現未	E
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	地域防災訓練については、新型コロナウイルス感染症の影響により訓練の中止や規模縮小となったことから参加者の大幅減となった。今後、訓練だけでなく実際の災害に備えた感染症対策を行っていく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	改善	拡充化○縮減化△	
	1 災害に強いまちをつくります	都市計画課	B		A	拡充	拡充	①		
	2 自主防災組織の体制及び連携強化を図ります	危機管理課	B		A	拡充	拡充	①		
	3 市民の防災意識の高揚を図ります	予防課(消防)	B		B	維持	維持	①		
4 市民の防災活動への参加を推進します	危機管理課	現未		A	拡充	拡充	①			
5 避難情報の適切な伝達と避難体制の強化を図ります	危機管理課	S		A	拡充	拡充	①			

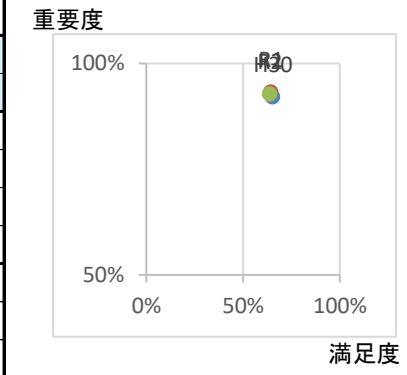
市民アンケート結果

総合評価

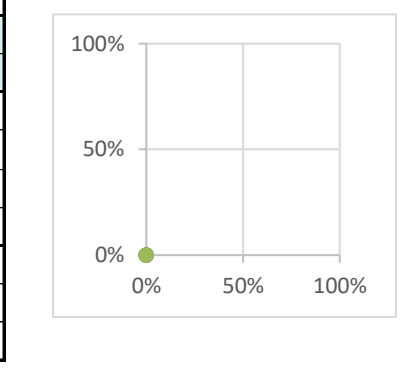
設問	「災害に備え防災対策が整っているまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	50.4%	60.0%	48.8%	45.3%	52.8%	そう思う(満足)	6.7%			
			81.3%	75.5%	88.0%	どちらかといえば思う	46.1%			
重要度			91.6%	93.7%	92.0%	どちらかといえば思わない	37.6%			
						そう思わない(不満)	7.6%			
					重要	63.5%				
					どちらかといえば重要	28.5%				
					重要ではない	6.1%				



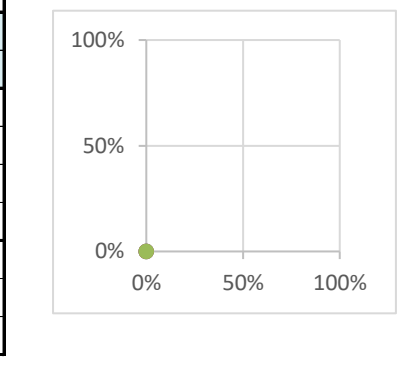
設問	「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	68.1%	78.0%	65.3%	64.4%	63.9%	そう思う(満足)	11.0%			
			83.7%	82.6%	81.9%	どちらかといえば思う	52.9%			
重要度			92.1%	93.2%	92.8%	どちらかといえば思わない	30.6%			
						そう思わない(不満)	3.8%			
					重要	56.4%				
					どちらかといえば重要	36.4%				
					重要ではない	5.6%				



設問	「安心して暮らせるまち」の実現のために、新型コロナウイルス感染症への対策が重要であり、新たに「自主防災組織資機材整備補助金」において、感染症対策に必要なマスクや消毒剤などの購入について、補助対象に加え感染症対策の強化を図るとともに、引き続きハード、ソフトの両面において各事業に取り組んでいく。									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
					重要					
					どちらかといえば重要					
					重要ではない					



設問	「安心して暮らせるまち」の実現のために、新型コロナウイルス感染症への対策が重要であり、新たに「自主防災組織資機材整備補助金」において、感染症対策に必要なマスクや消毒剤などの購入について、補助対象に加え感染症対策の強化を図るとともに、引き続きハード、ソフトの両面において各事業に取り組んでいく。									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
					重要					
					どちらかといえば重要					
					重要ではない					



結果分析 アンケート結果については、目標値の達成に向け引き続き大規模災害への対策強化と感染症対策に対して迅速に取り組む必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち										作成部署
R2	政策	2 交通事故・犯罪のないまちづくり										総務部
		SDGsゴール	3	16								
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		65,962	69,870	政策費増減額				3,908			
	政策費/全体費				比較				106%			
	政策事業費(決算)		66,305		一般財源増減額				3,001			
					比較				105%			
コスト分析と課題												

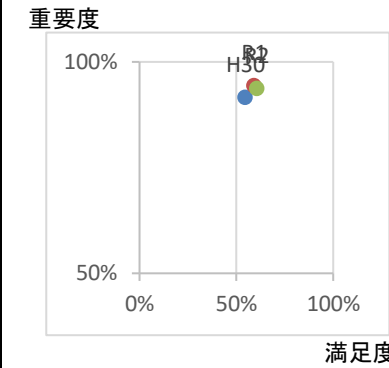
指標評価	総合計画										行政評価
	2 交通事故・犯罪のないまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
		H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度			
	「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	55.8	66.0	54.6	59.1	60.6	60.3	100.5%	B	B
	関連する施策										
	「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	71.6	82.0	83.3	70.0	78.2	76.2	102.6%	B	B
	関連する施策										
	交通事故年間発生件数	件	314	300	259	218	191	308	161.3% (D/C)	S	S
	関連する施策										
	刑法犯罪認知件数	件	234	200	159	123	106	219	206.6% (D/C)	S	S
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	交通事故対策の満足度は、期待値をクリアしているものの大きな変化は見られない。交通事故発生件数は年々着実に減少している。R2年度はコロナ禍のステイホーム、外出自粛により年度当初の交通事故は減少傾向であったが、10月から1月の外出規制が緩和された時期に前年を上回る交通事故が発生した。この時期1名の死亡事故も発生したことから、更なる注意を呼び掛ける必要がある。刑犯罪においても年々減少傾向にあり、満足度も高まっている。R2年度の件数減少は侵入窃盗の減少が主で、ステイホーム等が影響したと考えられる。半面、暴行・傷害事件等が増加していることから生活スタイルの変化に応じた注意喚起が必要である。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R4年度拡充化○縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性				
					コスト	成果	改善			
	1 交通事故を減らすため交通安全活動を推進します	地域支援課	現未	A	維持	維持	①			
	2 交通安全施設の整備を進めます	建設課	B	A	拡充	拡充	①			
	3 犯罪のない明るい地域社会づくりを推進します	地域支援課	現未	A	維持	維持	①			

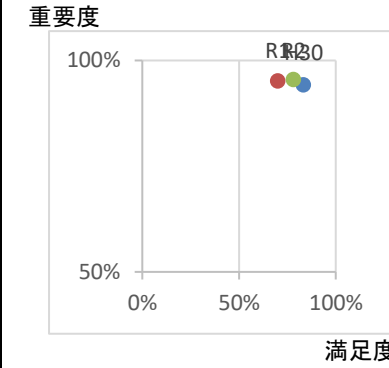
市民アンケート結果

総合評価

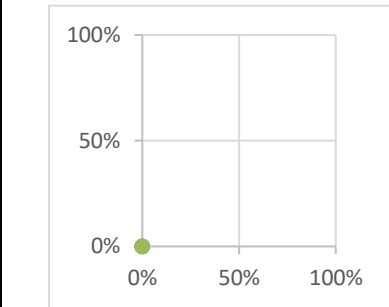
設問	「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	55.9%	66.0%	54.6%	59.1%	60.6%	そう思う(満足)	8.9%			
						どちらかといえば思う	51.7%			
			82.7%	89.5%	91.8%	どちらかといえば思わない	31.6%			
						そう思わない(不満)	6.6%			
重要度			91.6%	94.4%	93.7%	重要	60.4%			
						どちらかといえば重要	33.3%			
						重要ではない	4.9%			



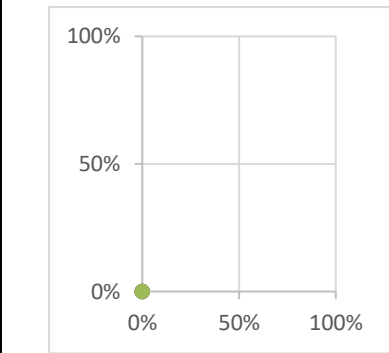
設問	「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	71.6%	82.0%	83.3%	70.0%	78.2%	そう思う(満足)	17.6%			
						どちらかといえば思う	60.6%			
			101.6%	85.4%	95.4%	どちらかといえば思わない	18.0%			
						そう思わない(不満)	2.8%			
重要度			94.2%	95.1%	95.5%	重要	65.5%			
						どちらかといえば重要	30.0%			
						重要ではない	3.4%			



設問	「交通安全施設の整備を進めます」									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問	「犯罪のない明るい地域社会づくりを推進します」									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析  
交通事故の対策を重要とする市民は9割以上と高い数値であるが、満足度は6割に留まっている。ハード、ソフトの両面において強化が必要である。犯罪の対策を重要とする市民は9割以上と高い数値であり、満足度も約8割と向上している。コロナ禍で周りとの接触が減少したことも要因と考えられるが、凶悪犯罪も発生していることから警戒意識の向上に資する取り組みが更に必要である。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方
交通事故対策について、R2年度はコロナ禍により交通安全教室などの啓発行事が計画的に実施できなかった。ウィズコロナを見据え、スクールガードや交通指導隊の協力により地域啓発活動の手法を研究する必要がある。犯罪被害については、不審者事案が減少していないことや、オレオレ詐欺など進化する犯罪もあることから更に注意が必要である。また犯罪件数は警察署が取り扱った件数であり、数字に表れない事案もあると予想され、更なる地域防犯を呼び掛ける必要がある。犯罪は不安を感じた段階で相談することが大きな事件に発展しない対策となることから、相談しやすい体制への強化が求められる。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち										作成部署
R2	政策	3 消防力を高めるまちづくり										消防本部
		SDGsゴール	11	13	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		150,006	232,991	政策費増減額				82,985			
	政策費/全体費				比較				155%			
	政策事業費(決算)		140,551		一般財源増減額				839			
	政策費/全体費				比較				101%			
コスト分析と課題												

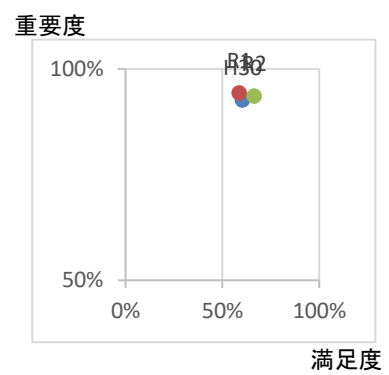
指標評価	総合計画										行政評価
	3 消防力を高めるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	59.5	70.0	60.4	58.7	66.4	64.2	103.4%	B	B
	関連する施策										
	消防団員の定数に対する充足率	%	87.6	95.0	90.1	86.8	84.1	90.9	92.5%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	災害現場活動の強化として取り組んでいる訓練や各種研修、派遣教育によって、技術、知識が身に付き、現場活動に活かされている。また、火災予防等の広報活動が、市民に届いているものと捉えるが、今後も継続することで、更に消防力を高め、複雑化・大規模化する災害に備えなければならない。また、全国的に減少傾向にある消防団員数は、本市においても厳しい状況が続いているが、消防団は地域防災力の強化に必要な不可欠な存在であることから、活動環境の整備とともに、地域や企業に理解や協力を求めていく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 消防施設・設備・体制の充実強化を図ります	警防課(消防)	B		A	維持	維持	①		
	2 消防技術の向上を目指します	消防総務課	B		A	維持	維持	①		
3 消防団の防災力の維持・向上を図ります	消防総務課	現未		A	維持	拡充	①			

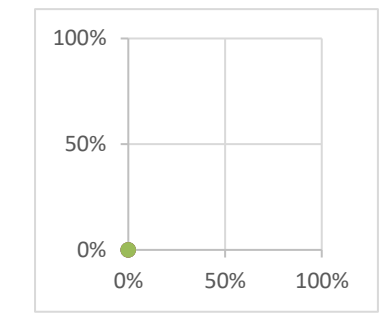
市民アンケート結果

総合評価

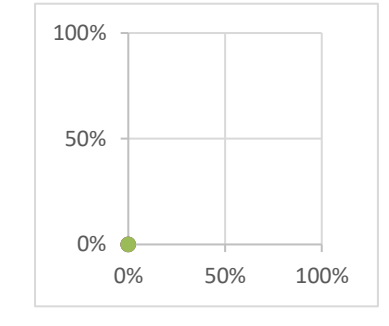
設問	「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	59.5%	70.0%	60.4%	58.7%	66.4%	そう思う(満足)	10.0%
						どちらかといえば思う	56.4%
			86.3%	83.9%	94.9%	どちらかといえば思わない	28.0%
						そう思わない(不満)	3.8%
重要度			92.6%	94.3%	93.5%	重要	60.1%
						どちらかといえば重要	33.4%
						重要ではない	4.7%



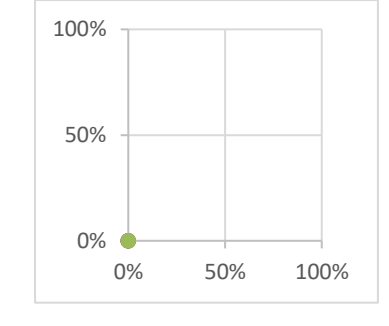
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 ハード面である車両や資機材の整備はもとより、市民への広報活動や的確な災害現場活動等のソフト面が、着実に向上しているものと捉える。また、防災や救急等は市民の安心、安全に直接的に関係することから、求められるものも高いため、更なるレベル向上に努めなければならない。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 事業の進め方
災害から市民を守るという使命のもとに、各種訓練や研修、派遣教育等による職員の資質向上、及び消防施設の維持管理や緊急車両等の的確な整備によって消防力の強化を図り、常に万全な体制を保つことが大切である。また、地域防災の要として必要不可欠である消防団員の確保のために、活動環境について検討するとともに、地域や企業に対して理解や協力を求め、地域防災力の強化に繋げていかなければならない。						



政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち													作成部署
R2	政策	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり													生活環境部
		SDGsゴール	3	6	7	8	11	12	13	14	15	17			
コスト評価	事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)								
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度							
	政策事業費(予算)			1,098,229	1,117,065	政策費増減額							18,836		
	政策費/全体費					比較							102%		
	政策事業費(決算)			1,105,955		一般財源増減額							12,204		
					比較							101%			
コスト分析と課題															

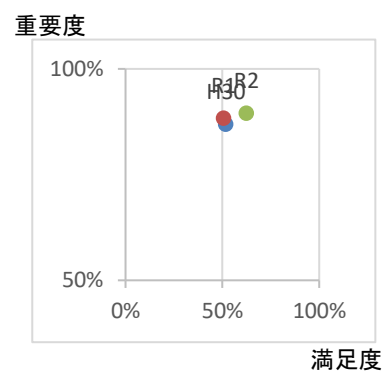
指標評価	総合計画										行政評価	
	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度			
	「市民や企業が環境保全に取り組むまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	56.8	67.0	51.7	50.6	62.4	61.3	101.8%	B	B	
	関連する施策											
	「水質が保全され川がきれいなまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	44.7	60.0	44.7	42.2	51.5	51.5	100.0%	B	C	
	関連する施策											
	水質環境基準の達成状況(BOD値)菊川:高田橋(2.0mg/l以内)	mg/l	1.2	2.0以内の維持	1.7	1.2	1.2	2.0以内の維持	166.7%(D/C)	S	S	
	関連する施策											
	水質環境基準の達成状況(BOD値)牛淵川:堂山橋(3.0mg/l以内)	mg/l	2.3	3.0以内の維持	3.0	2.5	2.4	3.0以内の維持	125.0%(D/C)	S	A	
関連する施策												
関連する施策												
関連する施策												
指標分析と課題	自然環境の保全に関しては、市民の関心も高く、公共下水道や合併浄化槽の普及への理解も促進され、河川環境は良好に保たれている。地球温暖化防止に向けて、環境政策の重要性が高まっており、脱炭素社会を推進するために、再生可能エネルギーの普及促進や、更なるリサイクルの推進が急務となっている。											

評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度			
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△
	1 地球温暖化対策・自然環境の保全を推進します	環境推進課	B		A	拡充	拡充	①			
	2 水質浄化・生活環境の改善を進めます	下水道課	B		A	維持	維持	①			
	3 循環型社会の推進を図ります	環境推進課	現未		A	維持	拡充	③			
4 適正な汚水処理施設の管理・運営を進めます	下水道課	B		A	維持	維持	①				

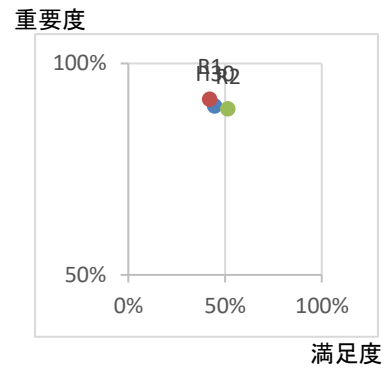
市民アンケート結果

総合評価

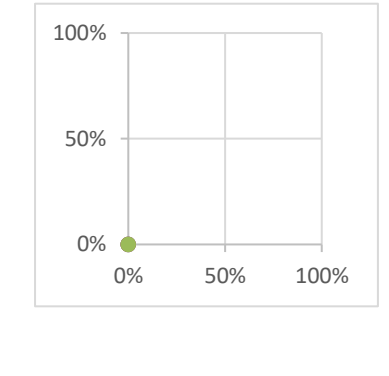
設問	「市民や企業が環境保全に取り組むまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	56.8%	67.0%	51.7%	50.6%	62.4%	そう思う(満足)	6.7%
						どちらかといえば思う	55.7%
重要度			77.2%	75.5%	93.1%	どちらかといえば思わない	32.3%
						そう思わない(不満)	2.9%
			86.9%	88.3%	89.5%	重要	37.6%
						どちらかといえば重要	51.9%
					重要ではない	8.3%	



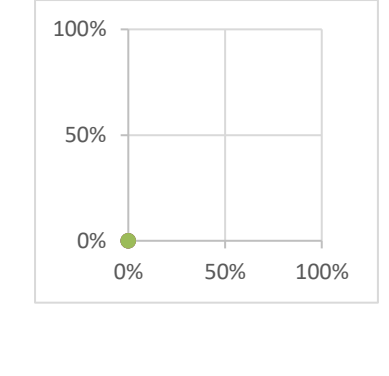
設問	「水質が保全され川がきれいなまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	44.7%	60.0%	44.7%	42.2%	51.5%	そう思う(満足)	6.8%
						どちらかといえば思う	44.7%
重要度			74.5%	70.3%	85.8%	どちらかといえば思わない	37.7%
						そう思わない(不満)	9.0%
			89.9%	91.5%	89.2%	重要	46.0%
						どちらかといえば重要	43.2%
					重要ではない	9.1%	



設問	「水質が保全され川がきれいなまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「水質が保全され川がきれいなまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
重要度						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 地球温暖化防止に向けた全世界的な取り組みが具体化し、地球環境の保全に関する市民の意識は非常に高まっており、脱炭素社会の実現に向けて、市の環境政策の重要度は増大していく傾向にある。

総合判定評価	C	見直し検討(複数施策)	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	③ 事業内容

地球温暖化防止に向けた全世界的な取り組みは、二酸化炭素の排出抑制が喫緊の課題とされ、産業界においては化石燃料の消費削減を目標とした対策が講じられようとしている。市の環境行政においても、水質浄化に加えて、二酸化炭素の排出量を政策指標として掲げ、地球温暖化防止施策に注力する必要がある。

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち										作成部署
R2	政策	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり										建設経済部
		SDGsゴール	9	11	15							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	政策事業費(予算)			913,137	804,378	政策費増減額					△ 108,759	
	政策費/全体費					比較					88%	
	政策事業費(決算)			967,675		一般財源増減額					89,922	
	政策費/全体費				比較					130%		
コスト分析と課題												

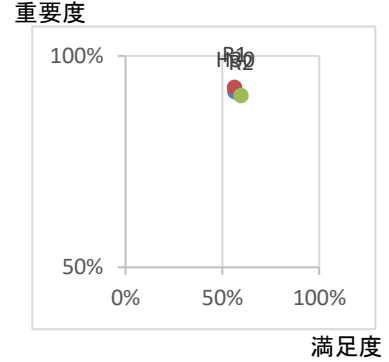
指標評価	総合計画										行政評価
	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	59.4	64.0	56.6	56.3	59.6	61.4	97.1%	B	B
	関連する施策										
	「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	43.5	59.0	39.3	38.4	42.5	50.4	84.3%	現未	E
	関連する施策										
	「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	56.6	62.0	55.9	56.5	62.5	59.0	105.9%	S	B
	関連する施策										
	都市計画道路の整備率	%	63.5	65.5	65.0	65.2	66.0	64.4	102.5%	S	B
関連する施策											
コミュニティバス1日当りの利用者数	人	124	145	130	133	113	133	85.0%	現未	E	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	青葉通り嶺田線と西方高橋線(掛浜バイパス)の2路線の整備を進めている。広域的幹線道路としての役割が大きいため、早期完成を目指していく。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、コミュニティバスの1日当たりの利用者数は減少している。感染拡大防止を行い利用促進を図っていく。										

評価分析	関連施策											
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価	R4年度拡充化○縮減化△							
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	改善					
	1 良好な住環境をつくります	都市計画課	S		A	維持	維持	①				
	2 幹線道路や生活道路を整備します	都市計画課	S		A	拡充	拡充	①				
	3 公園などの整備を進めます	都市計画課	B		A	維持	拡充	①				
	4 交通事業者と連携して交通手段の確保に努めます	地域支援課	S	S	A	維持	維持	①				
5 橋梁や道路施設を適切に維持管理し、長寿命化を図ります	建設課	S		A	拡充	拡充	①					
6 市営住宅を適切に維持管理し、長寿命化を図ります	都市計画課	B		A	拡充	維持	①					

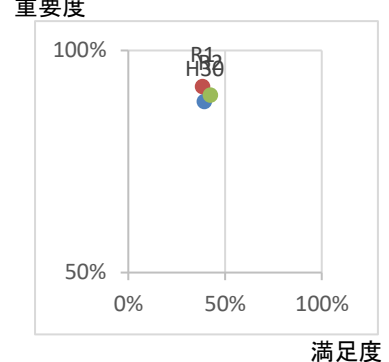
市民アンケート結果

総合評価

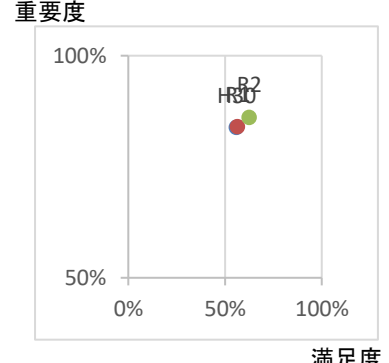
設問	「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	59.4%	64.0%	56.6%	56.3%	59.6%	そう思う(満足)	12.6%			
			88.4%	88.0%	93.1%	どちらかといえば思う	47.0%			
重要度			91.5%	92.5%	90.6%	どちらかといえば思わない	29.2%			
						そう思わない(不満)	10.0%			
						重要	44.2%			
						どちらかといえば重要	46.4%			
						重要ではない	7.8%			



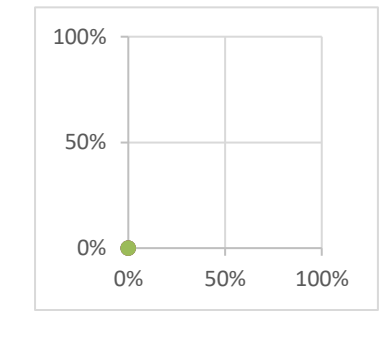
設問	「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	43.5%	59.0%	39.3%	38.4%	42.5%	そう思う(満足)	7.9%			
			66.6%	65.1%	72.0%	どちらかといえば思う	34.6%			
重要度			88.5%	91.8%	89.9%	どちらかといえば思わない	38.6%			
						そう思わない(不満)	17.8%			
						重要	47.8%			
						どちらかといえば重要	42.1%			
						重要ではない	8.2%			



設問	「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	56.6%	62.0%	55.9%	56.5%	62.5%	そう思う(満足)	13.6%			
			90.2%	91.1%	100.8%	どちらかといえば思う	48.9%			
重要度			83.8%	84.0%	86.1%	どちらかといえば思わない	27.9%			
						そう思わない(不満)	8.5%			
						重要	35.4%			
						どちらかといえば重要	50.7%			
						重要ではない	12.1%			



設問	「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析 市民アンケート結果については、3項目共に昨年度以上となった。しかし、利用しやすい交通手段の確保については現状値未達であった。引き続き、各項目ともに上昇となるように進めていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方
本市を選んでもらうためにも、良好な住環境や道路・公園の整備は重要である。ポテンシャルの高いインフラ整備を計画的に進め、人口減少の抑制に繋げていく必要がある。引き続き、本市を選んでもらい、住みよい菊川市を目指し、各事業を計画的に進めていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち							作成部署		
R2	政策	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり							生活環境部		
		SDGsゴール	6								
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)						
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	政策事業費(予算)			9,145	8,921	政策費増減額				△ 224	
	政策費/全体費					比較				98%	
	政策事業費(決算)			9,145		一般財源増減額				△ 224	
	政策費/全体費					比較				98%	
コスト分析と課題											
指標評価	総合計画										行政評価
	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「上水道が安定して供給されているまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	83.0	88.0	85.3	83.7	87.8	85.2	103.1%	B	B
	関連する施策										
	上水道有収率	%	85.7	90.0	85.2	85.3	85.4	87.6	97.5%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	自己水源が乏しく、大井川の水を受水している現状を多くの市民が理解し、安定的に水道水を供給出来ていることから満足度は一定の水準を維持している。大切な水道水を無駄にしないよう、老朽管路の更新整備を進め、漏水防止と管路耐震化を促進させ、有収率を更に向上させる必要がある。										
評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度拡充化○縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善		
	1 安定した水資源の確保と総合的な水質管理体制の構築を図ります	水道課	B		A	維持維持	①				
	2 管路の整備及び改良を進めます	水道課	B		A	維持維持	①				
3 水道施設の管理及び整備を進めます	水道課	S		A	維持維持	①					
4 安定財源の確保を図り、健全な事業経営を継続します	水道課	S		A	維持維持	①					

市民アンケート結果

総合評価

設問 「上水道が安定して供給されているまち」と思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度	83.0%	88.0%	85.3%	83.7%	87.8%	そう思う(満足)	31.4%
						どちらかといえば思う	56.4%
			96.9%	95.1%	99.8%	どちらかといえば思わない	8.9%
						そう思わない(不満)	2.4%
重要度			92.2%	93.6%	95.9%	重要	53.2%
						どちらかといえば重要	42.7%
						重要ではない	2.4%

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	

結果分析 リニア新幹線工事によって、大井川の水に関心が高まり、重要度も高まっている。大井川広域水道企業団から安定的な受水を継続しており、市民の満足度も高い評価となっている。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 事業の進め方

上水道企業会計としては安定的な経営を継続しており、今後とも市民満足度に一定の評価を得られるよう、管路や配水設備の適切な維持管理に努める。  
人口減少社会の到来や水道水供給施設の更新費用の増大など、長期的な課題に対しては、関係市町等と連携して、将来にわたり安定的に水道水を供給出来るよう調査・研究を進める。



政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち										作成部署
R2	政策	1 市民と行政との協働によるまちづくり										総務部
		SDGsゴール	16	17								
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		217,113	189,515	政策費増減額					△ 27,598		
	政策費/全体費				比較					87%		
	政策事業費(決算)		206,921		一般財源増減額					14,324		
	政策費/全体費				比較					110%		
コスト分析と課題												

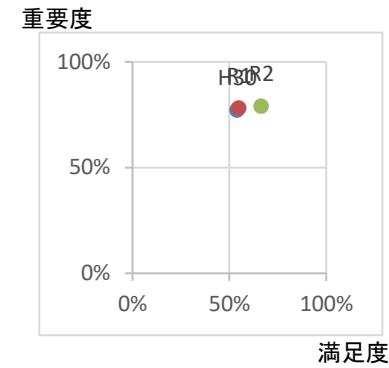
指標評価	総合計画										行政評価
	1 市民と行政との協働によるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	59.4	69.0	54.0	55.0	66.5	63.7	104.4%	B	B
	関連する施策										
	「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	72.3	82.0	70.5	69.4	76.3	76.6	99.6%	B	B
	関連する施策										
	市ホームページへのアクセス件数(年間)	件	290,335	315,000	498,195	538,838	731,392	301,297	242.7%	S	S
	関連する施策										
	市民協働センターへの団体登録数	団体	0	90	72	72	75	40	187.5%	A	C
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	市の情報発信においては、R2よりLINEとツイッターの二つの情報ツールが増えたことで情報を得る利便性が図られた点が評価されたと解する。ホームページにコロナウイルス感染症の情報を多く掲載したことでアクセス数が伸びたと解する。情報格差が生じることがないよう情報を送るターゲットがどのような情報を収集しているかなどを具体的にイメージし、複数のツールを掛け合わせて情報が伝わる力を高めていく必要がある。全ての地域でコミュニティ協議会が設立され、交流促進や生きがいづくりなど地域の活動は広がりをを見せている。しかし、市民活動団体は高齢化や後継者不足などにより、コロナ禍を含めた今後の活動の継続性に課題がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性				
					コスト	成果	改善			
	1 地域のために活動している市民や団体を支援します	地域支援課	S		A	維持	維持	①		
	2 まちづくりを進めるために市政情報を共有します	秘書広報課	S		A	拡充	拡充	①		
	3 地域文化の交流を通して人のつながりを地域の活性化に活かします	地域支援課	現未		A	維持	維持	①		

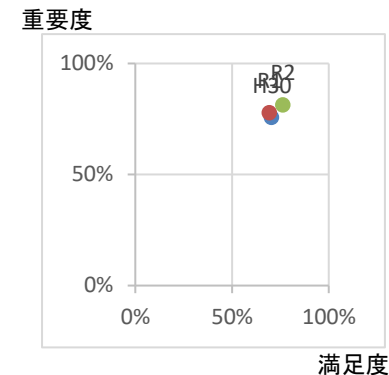
市民アンケート結果

総合評価

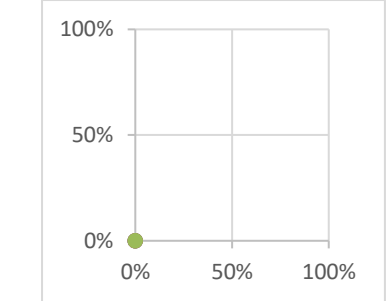
設問	「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	59.3%	69.0%	54.0%	55.0%	66.5%	そう思う(満足)	7.8%			
						どちらかといえば思う	58.7%			
			78.3%	79.7%	96.4%	どちらかといえば思わない	26.8%			
重要度			77.1%	78.1%	78.9%	重要	21.4%			
						どちらかといえば重要	57.5%			
						重要ではない	18.7%			



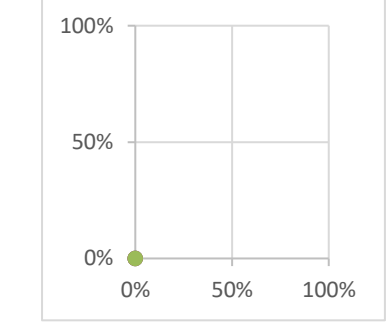
設問	「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	72.3%	82.0%	70.5%	69.4%	76.3%	そう思う(満足)	16.1%			
						どちらかといえば思う	60.2%			
			86.0%	84.6%	93.0%	どちらかといえば思わない	18.9%			
重要度			75.6%	77.8%	81.2%	重要	25.5%			
						どちらかといえば重要	55.7%			
						重要ではない	16.7%			



設問	「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問	「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析: 市の情報発信の重要度については、コロナ禍において市民個人や家族等に重大な影響を及ぼす情報がリアルタイムまたは必要な時にすぐに入手できることの重要性を市民が再認識したことでポイントが上昇したと解する。1%地域づくり活動交付金の創設等の取り組みにより地域の親睦や交流、課題の解決への取り組みが行われ、地域の主体性、助け合い等においてコミュニティ活動が重要と感じている市民は多い。今後も、コミュニティ活動の意義や重要性を多くの市民に伝え、活動への参加意識を高める取り組みが必要である。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方

総合評価: コロナ禍において感染などの情報を求める市民意識の高まりが、市の情報発信の重要度を高めた要因の一つと思われ、迅速な情報発信に努めた結果がホームページのアクセス数の増加につながった。今後も市民が求める情報を正確、かつ迅速に提供することの重要性を更に意識して取り組む必要がある。地域活動においては、自治会やコミュニティ協議会の活動により意識向上の数値が上昇しているが、高齢化、核家族化が進む中で防災や地域福祉など地域のニーズは多様化しており、協働の取り組み推進は更に重要となる。協働に取り組む団体が増えていることは好材料であるが、地域組織では役員の成り手が無いなど課題もあることから、負担軽減を含めた協働の在り方を模索していく必要がある。

政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち										作成部署
R2	政策	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり										総務部
		SDGsゴール	11	17								
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)			1,368	3,073	政策費増減額				1,705		
	政策費/全体費					比較				225%		
	政策事業費(決算)			193		一般財源増減額				△ 885		
					比較					30%		
コスト分析と課題												

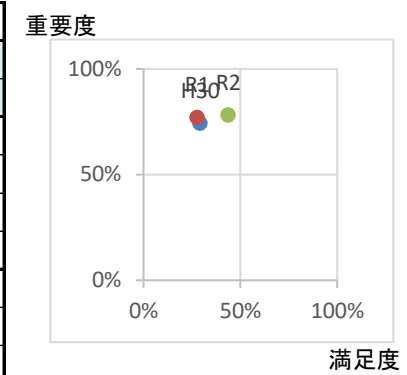
指標評価	総合計画										行政評価
	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	31.1	46.0	29.2	27.7	43.7	37.7	115.9%	B	B
	関連する施策										
	「菊川市に行ったことがある」「菊川市を知っている」と回答した人の割合(インターネットアンケート調査結果)	%	63.8	90.0以上	62.4	62.4	未実施	75.4	—	—	—
	関連する施策										
	新聞(静岡・中日)への掲載件数(年間)	件	380	410	288	406	501	393	127.5%	S	A
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	市の魅力発信については情報発信ツールが増え、まちの話題や施設などが写真とともに発信される回数が増えたことで魅力の伝わり方が高まり、市民の満足度の向上につながったと解する。新聞への掲載件数についてはコロナ禍でイベント開催は減ったものの、行政情報をこまめに提供したことが掲載件数の増につながった。課題としては市民の注目度が高い新聞掲載、テレビ放映の頻度を高めるため、メディアが求める新鮮な情報の掘り起こしに努める必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○縮減化△
	1 知名度向上に向けて情報を発信します	秘書広報課	B		A	拡充	拡充	①		
2 移住・定住に関する情報を積極的に発信します	企画政策課	S		B	維持	拡充	①			

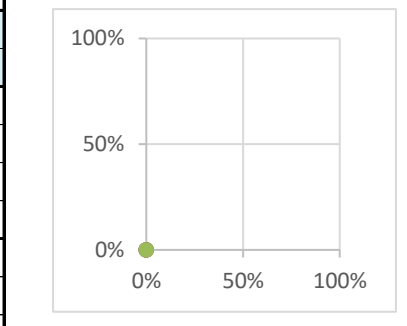
市民アンケート結果

総合評価

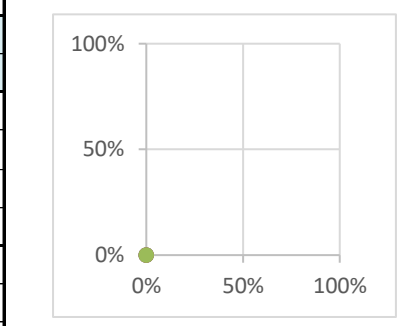
設問	「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	31.0%	46.0%	29.2%	27.7%	43.7%	4.4%	39.3%	43.3%	10.9%	
			63.5%	60.2%	95.0%	そう思う(満足)	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	そう思わない(不満)	
重要度			74.2%	77.0%	78.1%	重要	どちらかといえば重要	重要ではない		



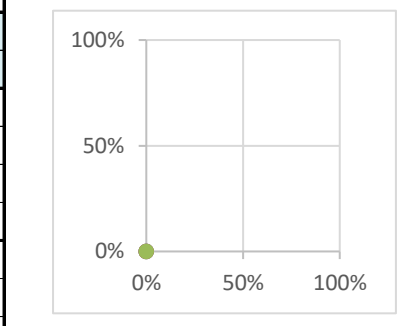
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	そう思わない(不満)	
重要度						重要	どちらかといえば重要	重要ではない		



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	そう思わない(不満)	
重要度						重要	どちらかといえば重要	重要ではない		



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	そう思わない(不満)	
重要度						重要	どちらかといえば重要	重要ではない		



結果分析 住み良さに関する自治体間の競争が年々クローズアップされており、市民もそうした情報に注目していることから、自らが住むまちの認知度向上、シビックプライドを醸成するためには市の魅力のPRが重要と考える市民が増えていると解する。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 事業の進め方
市の情報発信の指標ではR2年度の数値は前年度対比15ポイント増で期待値も超える実績となっているが、市民の50%以上が市の情報発信に満足を感じていない。新型コロナウイルス感染症により生活スタイルや働き方が大きく変化するとともに、デジタル化への変化もスピードが加速している。ウイズコロナの時代を背景に情報発信ツールは進化し、国民のニーズも多様化することは想像できることから、過去の常識にとらわれず時代の変化に即した情報発信に努めることが求められる。						



政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち										作成部署
R2	政策	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり										総務部
		SDGsゴール	5	10	16	17						
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)			12,367	9,965	政策費増減額				△ 2,402		
	政策費/全体費					比較				81%		
	政策事業費(決算)			10,057		一般財源増減額				△ 1,518		
					比較					83%		
コスト分析と課題												

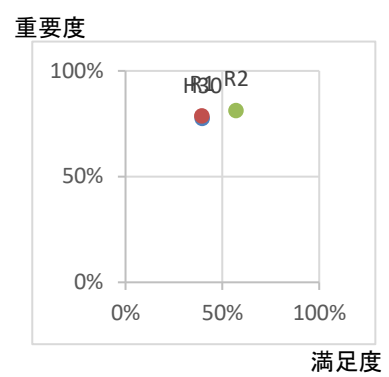
指標評価	総合計画										行政評価
	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C			D	C/D		
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を發揮できるまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	48.6	64.0	39.6	39.5	57.1	55.4	103.1%	B	C
	関連する施策										
	「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」だと思ふ市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	57.1	67.0	55.5	57.3	64.7	61.5	105.2%	B	B
	関連する施策										
	市協議会、委員会などの女性登用率	%	26.5	33.3	26.3	27.0	26.4	29.5	89.5%	現未	E
	関連する施策										
多文化共生サポーター数	人	0	10	11	17	21	4	525.0%	S	S	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	男女共同参画については、R2年度市民アンケートにおいて20代以下の意識が高いことが確認できたが、30代以上は依然として低い状況にある。また、女性の登用については固定的な役割分担意識等により進まない状況にある。今後は更なる啓発活動、審議会等の委員選出区分の見直しが必要である。多文化共生については、期待値を超える実績値は得られたものの、言葉の壁や生活スタイルの違いにより不都合を感じている市民は多いと感じる。外国人住民の多国籍化も進んでおり、今後も外国人住民と日本人住民の地域交流を一層推進していく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R4年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R4の方向性				
					コスト	成果	改善			
	1 男女が平等な立場で参画できる社会づくりに取り組みます	地域支援課	B	A	維持	維持	①			
2 外国人が暮らしやすい環境を整備します	地域支援課	S	A	維持	維持	①				
3 人権擁護活動を推進します	市民課	A	A	維持	維持	①				

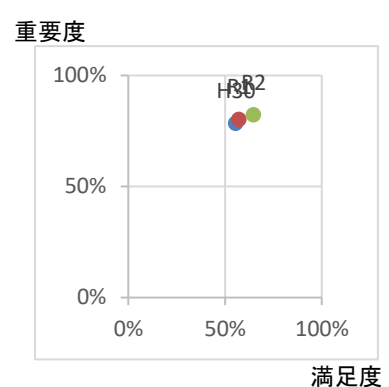
市民アンケート結果

総合評価

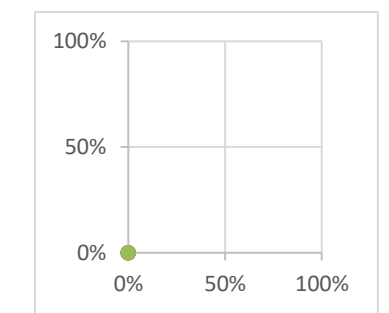
設問	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を發揮できるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	48.5%	64.0%	39.6%	39.5%	57.1%	そう思う(満足)	5.0%
						どちらかといえば思う	52.1%
			61.9%	61.7%	89.2%	どちらかといえば思わない	35.6%
重要度						そう思わない(不満)	5.1%
						重要	23.7%
			77.4%	78.6%	81.1%	どちらかといえば重要	57.4%
						重要ではない	16.4%



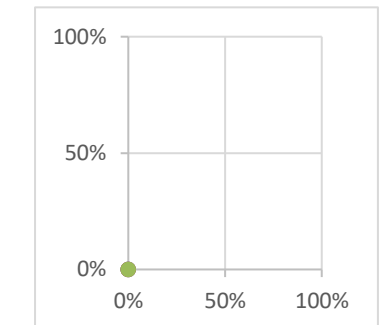
設問	「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度	57.1%	67.0%	55.5%	57.3%	64.7%	そう思う(満足)	6.9%
						どちらかといえば思う	57.8%
			82.8%	85.5%	96.6%	どちらかといえば思わない	27.4%
重要度						そう思わない(不満)	4.7%
						重要	23.7%
			78.4%	80.1%	82.3%	どちらかといえば重要	58.6%
						重要ではない	14.9%



設問	「男女共同参画については、R2年度市民アンケートにおいて20代以下の意識が高いことが確認できたが、30代以上は依然として低い状況にある。また、女性の登用については固定的な役割分担意識等により進まない状況にある。今後は更なる啓発活動、審議会等の委員選出区分の見直しが必要である。多文化共生については、期待値を超える実績値は得られたものの、言葉の壁や生活スタイルの違いにより不都合を感じている市民は多いと感じる。外国人住民の多国籍化も進んでおり、今後も外国人住民と日本人住民の地域交流を一層推進していく必要がある。」						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	「男女共同参画については、R2年度市民アンケートにおいて20代以下の意識が高いことが確認できたが、30代以上は依然として低い状況にある。また、女性の登用については固定的な役割分担意識等により進まない状況にある。今後は更なる啓発活動、審議会等の委員選出区分の見直しが必要である。多文化共生については、期待値を超える実績値は得られたものの、言葉の壁や生活スタイルの違いにより不都合を感じている市民は多いと感じる。外国人住民の多国籍化も進んでおり、今後も外国人住民と日本人住民の地域交流を一層推進していく必要がある。」						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析  
男女共同参画は、小学生への職業講話、幼児への読み聞かせ、講演会の開催等の啓発活動により意識は向上していると解する。しかし、職場や組織への女性登用は顕著ではなく、女性が社会に参画しやすい仕組みへの見直しが必要である。外国人相談窓口の設置、フェイスブックページの開設、日本語学習支援等による多文化共生に向けた取り組みにより、性別や国籍などを超えた共生社会が重要と感じている市民は多い。数値は毎年度確実に上昇しており、今後も外国人が暮らしやすい環境づくりを進めていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 事業の進め方
総合評価 男女共同参画の意識向上は全体的には数値の上昇が確認できる。内訳として若年層に対する啓発により20代以下の意識は高まりを見せているが、30代以上の年齢層は変化が見られない。年齢が高まるにつれ、職場や地域で負担のある役割が増えることで、主な役割は男性がという考えがまだまだ残っていると解する。避難所の運営など物事の決定プロセスに女性目線での改善が求められることから、更なる意識啓発と参加しやすい体質への改善が必要である。多文化共生においては、サポーターも増えるなかで日本語教室の開催、相談窓口も開設され評価は上昇している。県内でも外国人比率が高い本市では定住者も多いことから、出産、子育て、介護、防災、環境、地域活動など生活全般に共生意識が求められる。交流の機会を増やし、多様な場面において共生社会の理解に努めることが求められる。						



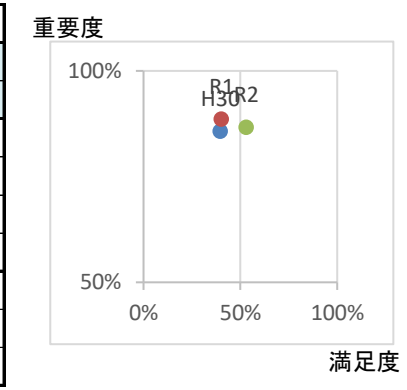
政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち										作成部署
R2	政策	4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり										企画財政部
		SDGsゴール	8	10	11	16	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	政策事業費(予算)		565,796	547,378	政策費増減額					△ 18,418		
	政策費/全体費				比較					97%		
	政策事業費(決算)		549,776		一般財源増減額					14,166		
	政策費/全体費				比較					103%		
コスト分析と課題												

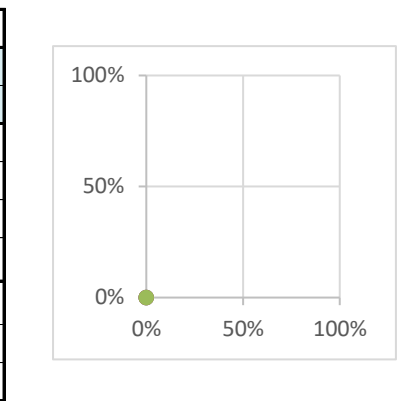
指標評価	総合計画										行政評価	
	4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価		指標評価
			A	B	C	D	C/D					
			H27年度	R7年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度			
	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」と思う市民の割合(市民アンケート調査結果)	%	42.7	58.0	39.6	40.3	53.0	49.5	107.1%	B		B
	関連する施策											
	将来負担比率	%	49.3	40.0	12.4	8.8	未公表	45.2	(D/C)	-		-
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
関連する施策												
指標分析と課題	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」と思う市民の割合が、前年度比12.7ポイント上昇し、令和2年度の期待値49.5%を3.5ポイント上回る事ができた。市民の皆さまが「効率的・効果的」と感じる視点は様々ではないだろうが、その前提として求められるのは、菊川市が進めるまちづくりや財政状況等をわかりやすく伝えることである。そのためには、広報紙やホームページといった既存の媒体はもとより、SNSのさらなる活用も課題として挙げられる。将来負担比率は、令和2年度の期待値45.2%を下回る見込みであるとともに、早期健全化比率である350%を大きく下回っており、財政状況は「健全」とされる範囲内にある。											

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R4年度			
			成果1	成果2	判定評価	コスト	成果	改善	拡大化○	縮減化△
	1 市役所の組織力を高めます	総務課	現未	A	拡充	拡充	①			
	2 ICT(情報通信技術)を活用し効率的な行政運営をします	企画政策課	B	A	拡充	拡充	①			
	3 健全で安定した行政運営を構築します	財政課	現未	A	拡充	拡充	①			
4 新公共経営と共創による行政運営を推進します	財政課	B	A	拡充	拡充	①				
5 他市町との広域連携を推進します	企画政策課	C	A	維持	維持	①				

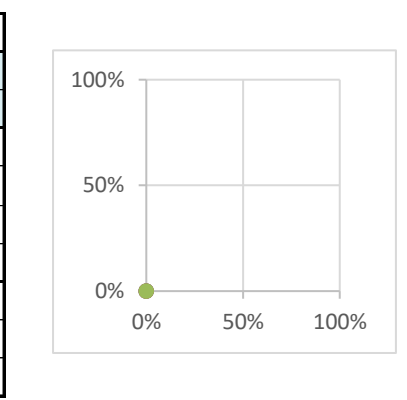
設問	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度	42.7%	58.0%	39.6%	40.3%	53.0%	そう思う(満足)	3.6%			
			68.3%	69.5%	91.4%	どちらかといえば思う	49.4%			
重要度			85.7%	88.6%	86.6%	どちらかといえば思わない	35.7%			
						そう思わない(不満)	8.1%			
						重要	38.5%			
						どちらかといえば重要	48.1%			
						重要ではない	11.0%			



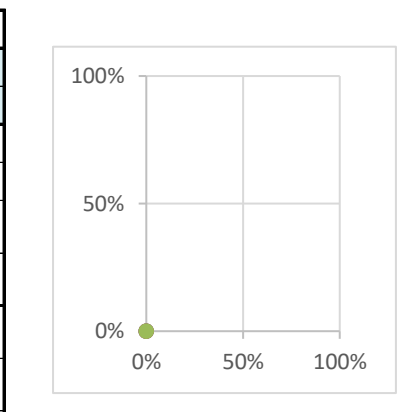
設問	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	H30年度	R1年度	R2年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析 満足度53.0%は前年度から12.7ポイント上昇し、目標値に対する達成度も91.4%となり、目標値達成に向けて、順調に推移していると言える。しかしながら、満足度53.0%という数値は、絶対値としては決して高い数値ではない。また、重要度86.6%も他の項目に比べ低く、満足度・重要度のポートフォリオ分析では、「満足度が低く、重要度が低い」項目に分類されている。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R4年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 事業の進め方
総合評価 「未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり」を進めるためには、職員一人ひとりの生産性を高めるとともに、職員が常にコスト意識を持ち、行政経営の視点に立って業務にあたる事が求められる。また、限られた職員で効率よく業務を進めるためには、AIやRPAの活用を始めとした「自治体DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進」も不可欠となる。これらを進めるためには、相応のコストが必要となるが、それが働き方改革(テレワークの推進や時間外勤務の削減、休暇取得の促進等)につながり、ひいては、市役所の組織力向上や経常経費の削減につなげていくことが求められる。新型コロナウイルスの影響により、市民サービスのあり方も変化し、これまでと違った視点や思考による行財政運営が求められるなか、政策・施策・事業単位でPDCAサイクルを回す「行政経営システム」を有効に活用し、効率的・効果的な行財政運営を進めていく必要がある。						